

構造一般事項

鉄筋コンクリート配筋規準

(特記なき限り、この基準による)

§ 2. 鉄筋コンクリート

2-1 コンクリート

コンクリート種類	圧縮強度 f_{ck} (N/mm^2)	比重 γ	使用位置
普通	18	18	捨てコンクリート
	21	21	基礎(部室床、階段室床)
	36	36	基礎(ホール機)
第1種軽量			
第2種軽量			

[注] 軽量コンクリート使用の場合、第1種軽量または第2種軽量に○印する。

2-2 鉄筋

鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G3112)

鉄筋の種類	鉄筋径(呼び名)	使用箇所
S D 3 4 5	D19以上D25以下	基礎
S D 2 9 5 A	D 1 6以下	基礎

§ 1. 一般共通事項

1-1 鉄筋の表示記号

異形鉄筋	D 1 0	D 1 3	D 1 6	D 1 9	D 2 2	D 2 5	D 2 9	D 3 2
丸 鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	29φ	
表示記号	○	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙

1-2 鉄筋の折曲げ

1) 鉄筋折曲げ形状

鉄筋の折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)		
		S D 2 9 5 A, S D 2 9 5 B, S D 3 4 5	D16以下	D19~D38
180°				
135°				
90°				
135°及び90°(幅止め筋)				

[注] 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端部の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2) フックの必要箇所(末端部)

○丸鋼
○あばら筋、帯筋および幅止め筋
○柱および梁(基礎ばりを除く)の出隅部分

●印の鉄筋の末端にはフックが必要
○煙突の鉄筋
○単純ばり支持部の下端筋
○片持ちばり、片持ちスラブ先端の上端筋

1-3 鉄筋の継手および定着

1) 重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm^2)	L_1 (フックなし)	L_{1n} (フックあり)
S D 2 9 5 A, S D 2 9 5 B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
S D 3 4 5	30 33 36	35d	25d
	18	50d	35d
	21	45d	30d
S D 3 9 0	24 27	40d	30d
	30 33 36	35d	25d
	21	50d	35d

[注] 1. L_1 、 L_{1n} : 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1n} は、下図に示すようにフック部分を含めない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

2) ガス圧接継手

19φ以上の丸鋼またはD19以上の異形鉄筋の継ぎ手はガス圧接とし、重ね継手は使用しない。

3) 隣り合う継ぎ手の位置

フックのある場合	(1)	(2)
$a \geq 15d$ かつ $a \geq 25mm$		
原則として(1)により、やむを得ない場合のみ(2)による。		
フックのない場合	$a \geq 15d$ かつ $a \geq 25mm$	
フックなしは異形鉄筋のみとする。		
圧接の場合	$a \geq 400mm$	

4) 鉄筋の定着長さ

(1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、特記による。特記なければ、40d (軽量コンクリートは50d)と下表の定着長さのうち大きい値とする。
(2) (1)以外の鉄筋の定着の長さは、標仕(表5.3.4)による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm^2)	フックなし	フックあり
S D 2 9 5 A, S D 2 9 5 B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
S D 3 4 5	30 33 36	35d	25d
	18	50d	35d
	21	45d	30d
S D 3 9 0	24 27	40d	30d
	30 33 36	35d	25d
	21	50d	35d

[注] 1. L_1 、 L_{1n} : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L_1 : 小梁及びスラブの上端筋の室内折曲げ定着の投影定着長さ
4. L_{1n} : 小梁の上端筋のフックあり定着長さ
5. フックあり定着の場合は、フック部分を含めない。また中間部での折り曲げはおこなわない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(3) 定着の方法は、下図による。
なお、柱口内に埋め込んで定着する鉄筋の定着長さは、標仕(表5.3.4)のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を標仕(表5.3.4)に示す直線長さとし、かつ、余長を8d、柱口面から鉄筋外面までの投影定着長さを標仕(表5.3.5)に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては原則として、柱せいりの3/4倍以上)をのみ定着させる。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm^2)	L_1	L_{1n}
S D 2 9 5 A, S D 2 9 5 B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
S D 3 4 5	30 33 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
S D 3 9 0	24 27	20d	20d
	30 33 36	20d	15d
	21	20d	20d

[注] 1. L_1 : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2. L_{1n} : 小梁及びスラブの上端筋の室内折曲げ定着の投影定着長さ (片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

5) 溶接鋼の継手および定着

(1) 継手長さ

(2) 定着長さ

6) スパイラル筋の継手および定着

1-4 鉄筋のかぶり厚および鉄筋間隔

1) 鉄筋に対するコンクリートの最小かぶり厚 (mm)

構造部分の種類	コンクリートの種類		普通コンクリート	軽コンクリート
	床スラブ・壁・床スラブ	耐力壁以外の壁	20	20
土に接しない部分	柱	屋上仕上がり内仕上がりなし	30	30
	耐力壁	屋上仕上がり外仕上がりなし	30	30
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁		40	40
	基礎・擁壁		60	70*

[注] (1) *印は軽量コンクリート1種または2種に適用する。
(2) 仕上げありとはモルタル塗りなどの仕上げのあるものと吹き付け塗装など鉄筋の耐久有効でない仕上げのものを除く。
(3) 床スラブ、はり、基礎および擁壁に接する部分のかぶり厚には、捨てコンクリートの厚さを含めない。

2) 鉄筋の間隔

(1) 鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。
○粗骨材の最大寸法の1. 2 5倍
○2 5 mm
○径の1. 5倍
(2) 主筋と軸方向鉄骨とのあきは(1)による。

§ 2. 柱の配筋

2-1 柱筋の継手および定着

(1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上端の柱頭にある場合は、フックを付ける
(2) 隅り合う継手の位置は、標仕(表5.3.3)による。

2-2 帯筋および補強筋

1) 帯筋

○帯筋(1組の数、径、ピッチは特記による)
○帯筋の形状(下図)

2) 補助筋

○補助筋を使用する場合は下図による

3) 帯筋の割付け

[注] 柱の上下端より柱の最大径の1. 5倍に等しい範囲内では、帯筋間隔を上記の1. 5倍まで増大することができる。

§ 3. 梁の配筋

1) 大梁主筋の継手、定着および余長

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(1) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引きとおすことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず室内に定着する場合は図3.1による

図3.1 梁主筋の梁内定着

(2) 梁主筋は柱内に折り曲げて定着する場合は次のようにする。
なお、定着の方法は、標仕(5.3.4(d)(3))による。
上端筋: 曲げ降ろす。
下端筋: 原則として曲げ上げる。

(b) ハンチのない場合

[注] 1. 継手中心位置は次のようにする。
上端筋: 中央1/2以内
下端筋: 柱面よりせいり(D)以上とし、1/4を加えた範囲以内
2. 標仕(5.3.2(b)(2))で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_{1n} を確保できない場合は、標仕(5.3.4(d)(3))によることができる。

(c) ハンチのある場合

[注] 1. 標仕(5.3.2(b)(2))で定めた鉄筋には、フックを付ける。
上端筋: 中央1/2以内
下端筋: 柱面よりせいり(D)以上とし、1/4を加えた範囲以内
2. 室内定着の端部下端筋が接合するときは、---のように引き通すことができる。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_{1n} を確保できない場合は、標仕(5.3.4(d)(3))によることができる。

4-2 段違いばり

4-3 あばら筋および補強筋

1) あばら筋

○あばら筋(1組の数、径、ピッチ)は特記による
○あばら筋の形状は下図による

(1) 標準 (2) シングル割あばら筋 (3) ダブル割あばら筋 (4) キップタイプ付あばら筋

[注] 原則として(1)~(3)とし、T形ばりの場合(4)とすることができる。

2) 補助筋

補助筋を使用する場合は下図による。

腹筋	D < 600	不要
巾止筋	600 ≤ D < 900	2 - D10
	900 ≤ D < 1,200	4 - D10
受筋	1,200 ≤ D	D13にて@500以内とする
	(注) 柱の定着は15d以上とする。	
釣筋	9φ @ 600以内で割付ける。	

3) あばら筋の割付け

(1) ハンチのない場合

(2) ハンチのある場合

[注] あばら筋は柱面から50mmの位置より割付ける。

§ 5. 地中ばり

5-1 地中ばり(異形鉄筋)の定着および継手

1) 繋ぎばり

2) 基礎ばり(耐圧板などと一体で地反力を受ける場合)

[注] (1) 印は重ね継手位置、印は余長を示す。
(2) 図示なき事項は大ばりの項による。
※ L_{1n} を確保できない場合は、標仕(5.3.4(d)(3))によることができる。

5-2 地中ばりと基礎の納まり

1) $0 < D \leq 500$ 2) $500 < D \leq 1,000$

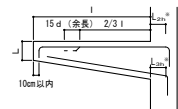
§ 6. 小ばりおよび片持ちばり

6-1 小ばり筋の定着および継手

[注] (1) 図示なき事項は大ばりの項による。
(2) 終端になる場合の四すみの鉄筋は大ばり内に斜めに定着する。
(3) 印は定着位置、印は余長を示す。
※ L_{1n} を確保できない場合は、標仕(5.3.4(d)(3))によることができる。

6-2 片持ちばりの定着

1) 先端に小ばりのない場合



- [注] (1) 図示のない事項は、大ばりの項による。
(2) 〓印は余長を示す。
(3) 先端の折曲げの長さLは、はりせいよりかぶり厚を除いた長さとする。
(4) はり筋を引通せない場合は、取合部材の中心を超えてから縦におろす。ただし、柱に取合う場合は、全数引通せる場合でも、上端筋は2本以上を柱に定着する。
※ L₁、L₂を確保できない場合は、横仕(5.3.4(d) (3))によることができる。

2) 先端に小ばりがある場合

(1) 小ばりが連続する場合 (2) 小ばりの終端部

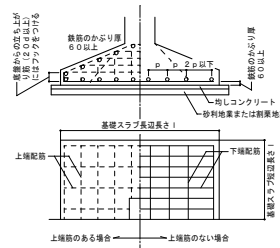


- [注] (1) 図示のない事項は上記(1)による。
(2) 先端小ばり(屈つなぎばり)の連続端は片持ちばりの先端を貫通する通し筋とし、終端部(コーナー部)は、小ばりの軸方向筋を片持ちばり内に水平に定着する。

§ 7. 基礎

7-1 基礎の配筋

1) 基礎の配筋とかぶり厚



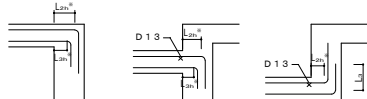
- [注] (1) 鉄コンクリートの厚さは60mm以上とする。
(2) 砂利地盤厚さは60mmを標準とする。

§ 8. 床スラブ

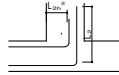
8-1 床スラブ筋の定着長さおよび継手

1) 床スラブ筋の定着長さおよび受け筋の配筋

(1) 一般床スラブ

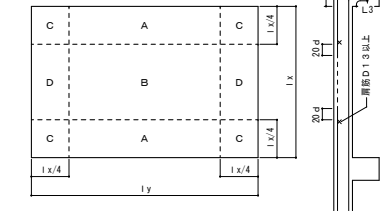


(2) 耐圧床スラブ



2) 床スラブ筋の継手

(1) 継手の位置



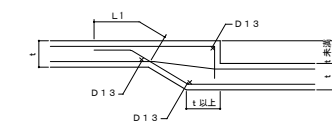
	標準継手位置
上筋	短辺方向 B D 長辺方向 A B
下筋	両方向共 A C D

(2) 継手長さのとれぬ場合

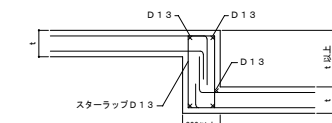
配筋などを検討して添溶接することができる。ただし、溶接長さは、片面では10d、両面では5dを標準とする。
(dは鉄筋の公称径)

8-2 段違いスラブ

1) スラブ厚未満の段違い

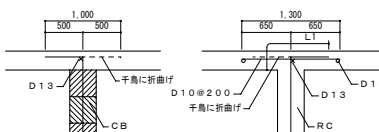


2) スラブ厚以上の段違い

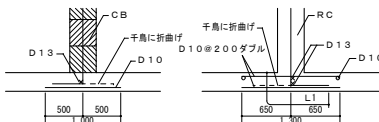


8-3 壁付床スラブ

1) 上端筋のない壁付床スラブ

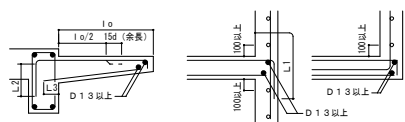


2) 間仕切壁の立上り部床スラブ補強筋

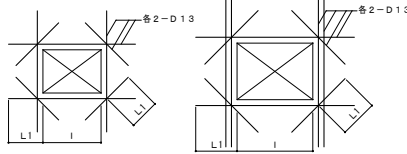


8-4 片持ちスラブ筋の定着

1) 一般 2) 手すりとの納まり



8-5 開口部の補強



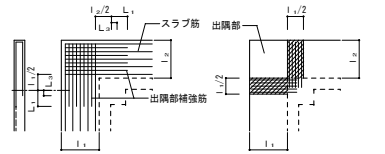
- 1) 開口面積 $A \leq 0.3m^2$ $l \leq 0.6m$
2) 開口面積 $0.3 < A \leq 0.8m^2$ $l \leq 1.0m$

8-6 片持スラブ・屋根スラブの補強

(i) 補強配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100@ダブルとする。

(ii) 出隅受け部(斜線部)の補強筋は特記による。

1) 出すみ部



(注) $l_1 \geq l_2$ とする

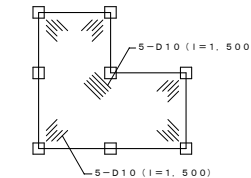
(注) 1. $l_1 \geq l_2$ とする

2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着とする

出隅部分補強配筋

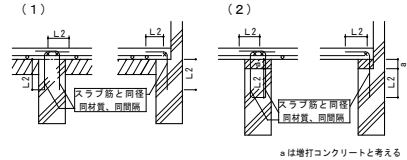
2) 屋根スラブ

屋根スラブの出すみ部および入すみ部分には補強筋を上端筋の下側に配置する。

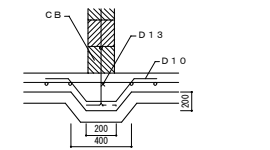


8-7 土間スラブ

1) 土間スラブと基礎ばりとのシャーコネクタの配筋



2) コンクリートブロックが土間スラブにのる場合の配筋



9-6 壁開口部の補強

壁の種類	補強筋	
	縦筋	斜め
W10 W12 W15	2-D13	2-D13
W18 W20	2-D13	2-D13

9-7 コンクリートブロック間仕切

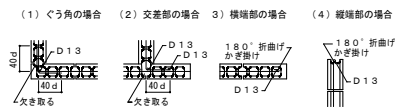
1) 一般事項

- (1) 配筋は特記による(B100の場合は9-2項参照)
(2) 鉄筋の重ね継手および定着長さは下記による。

適用箇所	重ね手長さ	定着長さ
一般部分の配筋	25d	25d
開口部周囲の配筋	40d	40d

- (3) 腰壁、へいなどの縦筋は継手を設けてはならない。ただし、重ね長さ5d(dは鉄筋の公称径)以上の両面アーク溶接を行う場合は継手を設けることができる。
(4) 間仕切壁のコンクリートブロック積みの高さは、厚100の場合12段、厚150の場合18段以下とし、その上または下に同じ厚さの鉄筋コンクリートの壁を設ける。
(5) 横筋そう入部は横筋用ブロックを使用し、横筋は縦筋に鉄線で緊結する。

2) 交差部、端部(開口部)の配筋



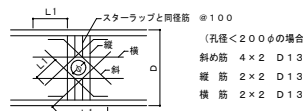
§ 11. はり貫通孔補強

11-1 一般事項

- 1) はり貫通孔は原則として、はりせいの1/3以下とする。
2) 孔が並列する場合、その中心間隔は孔径の3倍以上とする。
3) 孔径が梁せいの1/10以下、かつ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
4) 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近とし下記による。

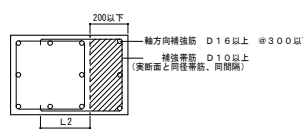
500 ≤ D < 700	d ≥ 175
700 ≤ D < 900	d ≥ 200
900 ≤ D	d ≥ 250

11-2 補強方法



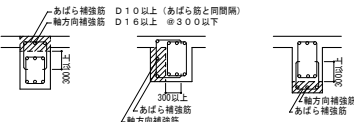
§ 12. 増打コンクリート

12-1 柱の補強



- 1) 軸方向補強筋の定着長さは20dとする。
2) 増打コンクリート厚さが70mm以下では補強しなくてよい。

12-2 はりの補強



- 1) 増打コンクリート厚さは、原則として200mm以下とする。ただし、厚さが70mm以下では補強しなくてよい。
2) 軸方向補強筋の定着長さは20dとする。ただし、常時荷重下において引張りを受ける軸方向補強筋は30d以上定着させる。

§ 13. その他

本標準図中に記載なき事項については、公共建築工事標準仕様書(平成25年版)建築工事編(横仕)による。

木 造 仕 様 書

I 工事概要

1. 工事名称 富山県立大学学生会館新築工事

2. 工事場所

地名	富山県射水市黒河地内
敷地面積	109.793.43 m ²
都市計画区域	○ 内 (○ 市街化区域 ・ 市街化調整区域 ・ その他) ・ 外
用途地域	・ 第一低層住専 ・ 第一中高層住専 ・ 第 種住居 ・ 準住 ・ 近商 ・ 商業 ・ 準工 ・ 工業 ・ 工専 ・ 指定なし
防火地域	○ 防火 ・ 準防火 ○ 指定なし
建築物の用途	(建築基準法) 学校 (消 防 法) 防火対象物 項
県民福祉条例	※ 適用する ・ 適用しない
構造・階数	木 造 2 階建
耐火建築物等の別	・ 耐火建築物 ・ 準耐火建築物 (・ イ ・ ロー1 ・ ロー2) ○ その他
建築面積	690.72 m ²
延床面積	859.88 m ²
屋根仕上	耐腐カラー-ガル鋼板 一文字葺、立平葺
外壁仕上	県産スギ羽目板 木材保護塗料、窯業系サイディング 外壁用弾性塗材
最高高さ	9.595 m
最高軒高さ	7.445 m
居室床高さ	45.00 c m
基礎形式	浅層地盤改良、杭基礎
地盤の設計長期許容支持力度	50 KN/m ²
垂直積雪量	1.75 m
耐震安全性の分類	構造体 ・ Ⅰ類 ○Ⅱ類 ・ Ⅲ類 (重要度係数 ・ 1.5 ○1.25 ・ 1.0)
	建築非構造部材 ○・A類 (出入口廊除く) ○B類
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定に使用する条件	地区の区分に応じた風速 (Vo (m/sec)) ○30 ・ 32 地表面粗度区分 ・ Ⅰ ・ Ⅱ ○Ⅲ ・ Ⅳ

4. 工事範囲

5. その他

工事保証及び経年検査

工事完成後 請負業者は契約書に準ずる期間保証の責に任ずる。
完成引渡し後 1 年目 2 年目は経年検査を行う。検査の結果工事不良及びこれらに準ずる理由により生じたと認められる損傷、又は不都合がある場合は監督員の指示により速やかに修理する事。これに必要な費用はすべて請負者の負担とする。

II 建築工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁審議部制定「公共建築木造工事標準仕様書 平成28年版」
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版」（以下「公共」という。）
「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版」（以下「改修」という。）による。

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれ工事仕様書を適用する。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名等を示す。

④

① 防腐・防蟻処理

木造工事

地面からの高さが1 m以内の外壁の軸組(室内側に露出した部分を除く)の防腐防蟻措置は、次のいずれかによる。

(4.2.1)

(1) 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材

「製材の日本農林規格」(以下JAS規格) 第4条による耐久性区分D1の心材のみを用いた以下の製材。

・ヒノキ ・ヒバ ・ベヒ ・ベイスギ ・ベヒバ

種 類	樹 種 名
・土台	・ヒノキ
・根太	・
・大引	・
・	・

(2) 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

(4.2.1(2))

・JAS規格による以下の性能区分に適合するもの。

(4.2.1(2)(i))

JAS 性能区分	木材の使用状態	使用薬剤名 (加圧注入薬剤量)	備 考
K2	気候が比較的寒冷な地域 における住宅部材用。 (青森県及び北海道地域)	・タナリスCY(CUAZ 0.5kg/m ³ 以上) ・モクポーAAC(DDAC 2.3kg/m ³ 以上) ・	タナリスCY (濃緑青色 または濃青褐色)
K3	通常の腐朽蟻害の恐れのある条件下での土台等住宅部材用。	・タナリスCY(CUAZ 1.0kg/m ³ 以上) ・モクポーAAC(DDAC 4.5kg/m ³ 以上) ・	モクポーAAC (ほぼ着色なし)
K4	通常より激しいの腐朽蟻害の恐れのある条件下での土台等住宅部材用。	・タナリスCY(CUAZ 2.0kg/m ³ 以上) ・モクポーAAC(DDAC 9.0kg/m ³ 以上) ・	

7 接合部等の
防火被覆処理

④ 接合金物・接合具等

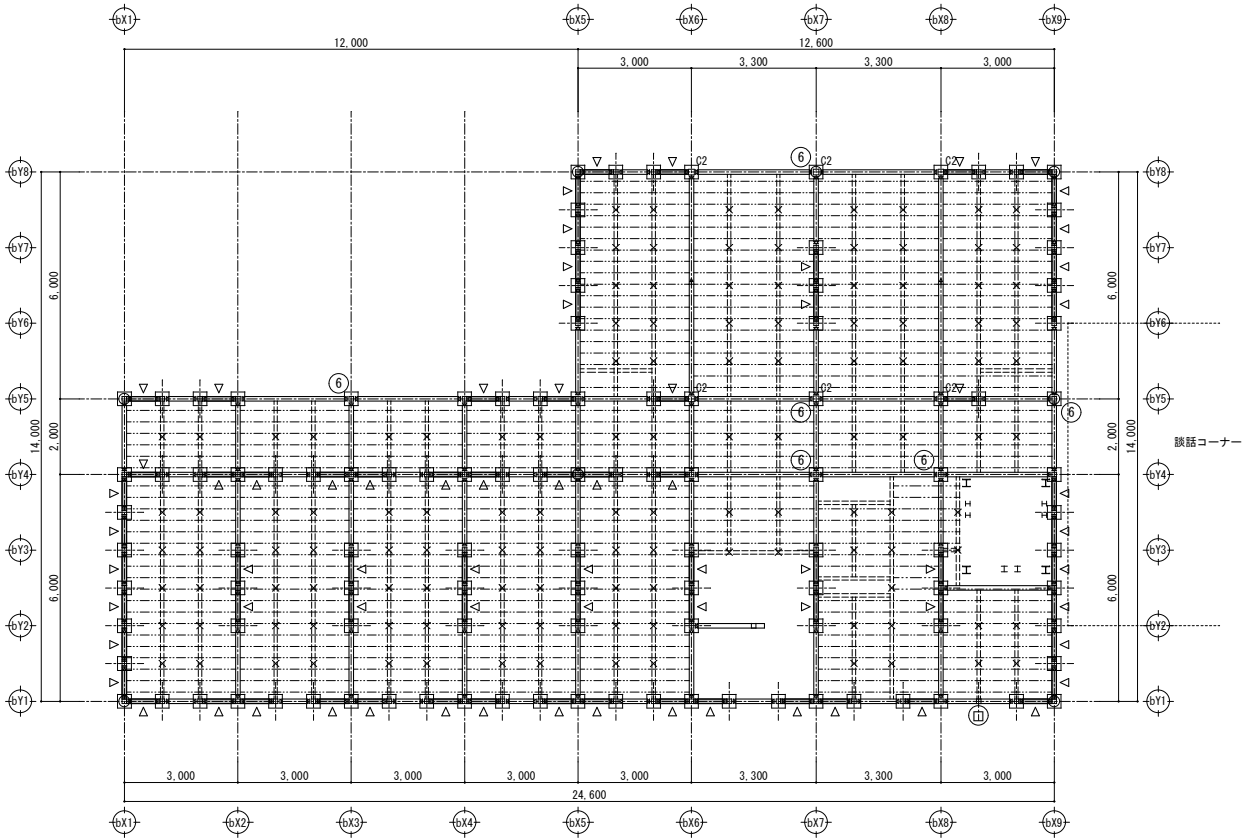
(a) 接合金物	(6. 2. 4 (a))
接合金物の適用は図示による。	
○下記以外の金物	(6. 2. 4 (i))
・Zマーク、Gマーク金物	(6. 2. 4 (ii))
・Dマーク、Sマーク金物	(6. 2. 4 (iii))

○ボルト及びナットに用いる座金は、特記なき限り用途ごと(引張、せん断)に下表により使い分ける。なお、ボルトとの組み合わせにより耐力が決まっているボルト等の座金は、その仕様に至ずる。

(6.2.4(c)(ii)②)

		単位 (mm)					
		ボルト径					
		8	10	12	16	20	24
座金の大きな 引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の一辺	45	60	70	90	120	140
	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
せん断を受けるボルト	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の一辺	30	35	40	60	70	80

 <div>MIYOI & FUKUMI JOINT VENTURE 富山県立大学新棟新築等工事三四五・福見設計共同体</div>	管理技術者		意匠担当主任技術者		担当者		記事	工事名称 富山県立大学学生会館新築工事	日付	図面番号
	矢後 勝		西野 晴 仁		飯 倉 正 和			図面名称 木造工事特記仕様書 0 1	[A1]	S-003
	一級建築士登録第186429号		一級建築士登録第247715号		一級建築士登録第322809号				[A3]	



1階床伏図

- 柱
- 通し柱
- 柱脚 柱勝ち (土台負け)
- 土台 特記無き限り D120 (120x120)

部材リスト

- C1 : 120x120 県産材[※] 同一等級集成材 E65-F255
- 特記無き限り C1 とする
- C2 : 150x150 県産材[※] 同一等級集成材 E65-F255

エレベーター用鉄骨部材リスト (SN400級材)

- 柱 : 200×200×8×12
- 間柱 : 150×150×7×10
- 大梁 : 200×200×8×12
- 小梁 : 200×100×5.5×8

特記無き限り 1/4製材JAS同等

土台仕口

土台継手

根太 45x60#300 ベイ材[※] 製材JAS同等 防蟻注入材

大引 90x90#900 ベイ材[※] 製材JAS同等 防蟻注入材

床束 #1000

床下地: 構造用合板 t=15 (県産材[※] 合板)

CLT 県産材[※] Mx60-3-3 異等級構成

CLT耐力壁 鋼製ダンパー及び

せん断コネクタ取付位置を示す

間柱: 40x120 県産材[※] 製材

柱脚金物 仕様は金物リスト参照。

特記無き柱脚は、(7) 同等以上とする。

図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、

選定を行うこと。

CLT周辺金物は、別図参照とする。

2階床伏図

- 柱
- 通し柱
- 下部柱位置
- 梁 特記無き限り 120x210
- 梁仕口
- 合板受け 90x90 ベイ材[※] 製材JAS同等
- 床下地: 構造用合板 t=24 (サネ加工無、県産材[※] 合板)

四周打ちN75#75以下

短期許容せん断耐力12.57kN/m

火打梁

CLT 県産材[※] Mx60-3-3 異等級構成

CLT耐力壁 鋼製ダンパー及び

せん断コネクタ取付位置を示す

間柱: 40x120 県産材[※] 製材

部材リスト

- C1 : 120x120 県産材[※] 同一等級集成材 E65-F255
- 特記無き限り C1 とする
- C2 : 150x150 県産材[※] 同一等級集成材 E65-F255
- 120x180: 県産材[※] 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x210: 県産材[※] 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x240: 県産材[※] 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x330: 県産材[※] 対称異等級集成材 E65-F225
- 150x540: 県産材[※] 対称異等級集成材 E75-F240
- 150x570: 県産材[※] 対称異等級集成材 E75-F240

柱頭柱脚金物 仕様は金物リスト参照。

梁接合金物 仕様は金物リスト参照。

特記無き柱頭・柱脚は、(9) 同等以上とする。

柱頭・柱脚は、2階柱脚金物/1階柱頭金物を示す。

特記無き梁接合部は、(T5) 同等以上とする。

図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、

選定を行うこと。

CLT周辺金物は、別図参照とする。

エレベーター用鉄骨部材リスト (SN400級材)

- 柱 : 200×200×8×12
- 間柱 : 150×150×7×10
- 大梁 : 200×200×8×12

梁上端=2FL-150とする

柱脚柱頭金物リスト

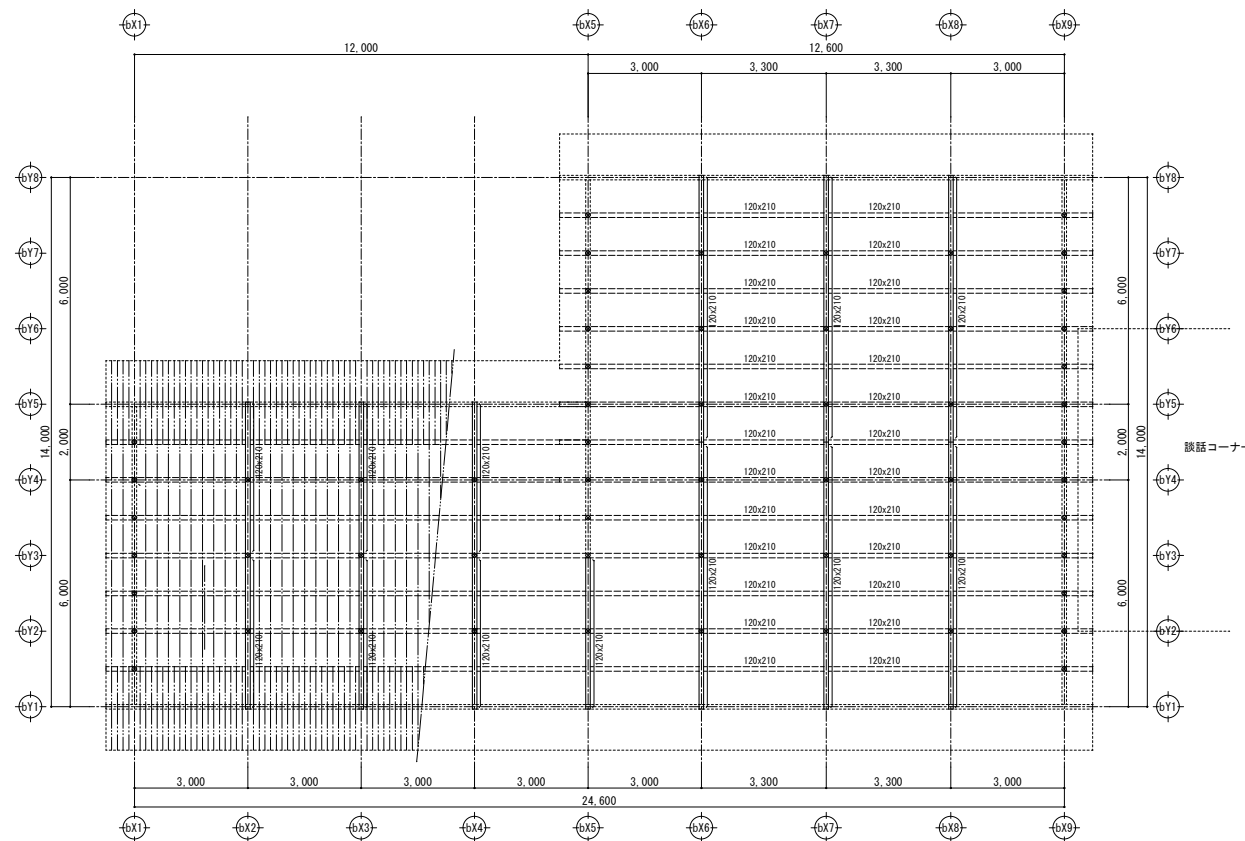
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	N値	使用金物例	図面表記
●	□	(い)短ほぞ差し+かすがい打ち	0.0	0.0以下		(1)
	N L	(ろ)長ほぞ差し+込み栓打ち L形プレート	3.4	0.65以下		
	V T	(は)山形プレート T形プレート	5.1	1.0以下		
	P I	(二)羽子板 [※] 1/4 短冊金物	7.5	1.4以下		
	Ps Is	(ほ)スクリュー併用羽子板 [※] 1/4 スクリュー併用短冊金物	8.5	1.6以下		
	2	(へ)10kN引き寄せ金物	10.0	1.8以下		
	3	(と)15kN引き寄せ金物	15.0	2.8以下		
	4	(ち)20kN引き寄せ金物	20.0	3.7以下		
	5	(り)25kN引き寄せ金物	25.0	4.7以下		
	32	(ぬ)15kN引き寄せ金物×2	30.0	5.6以下		
●	6	短期引張耐力31.2kN以上	31.2	5.80	短期引張耐力31.2kN 同等品以上	(6)
●	7	短期引張耐力75.7kN以上	75.7	14.00	短期引張耐力75.7kN 同等品以上	(7)
●	9	短期引張耐力45.65kN以上	45.65	8.45	短期引張耐力45.65kN 同等品以上	(9)

梁接合 (仕口) 金物リスト

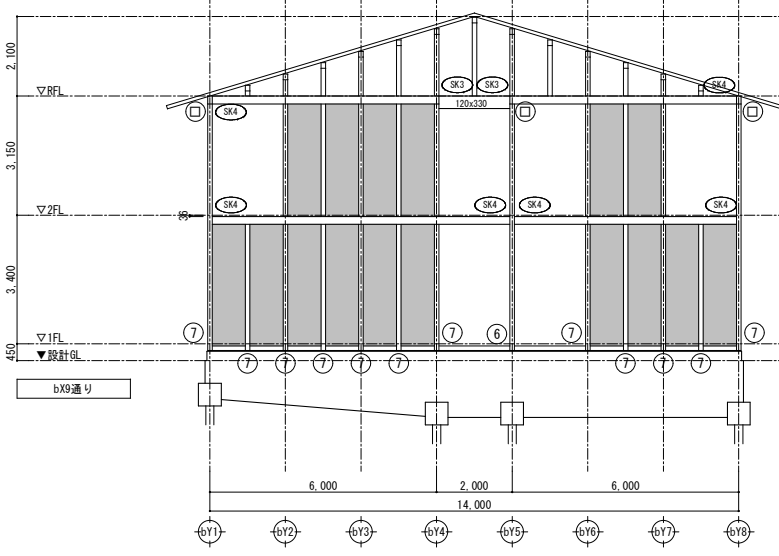
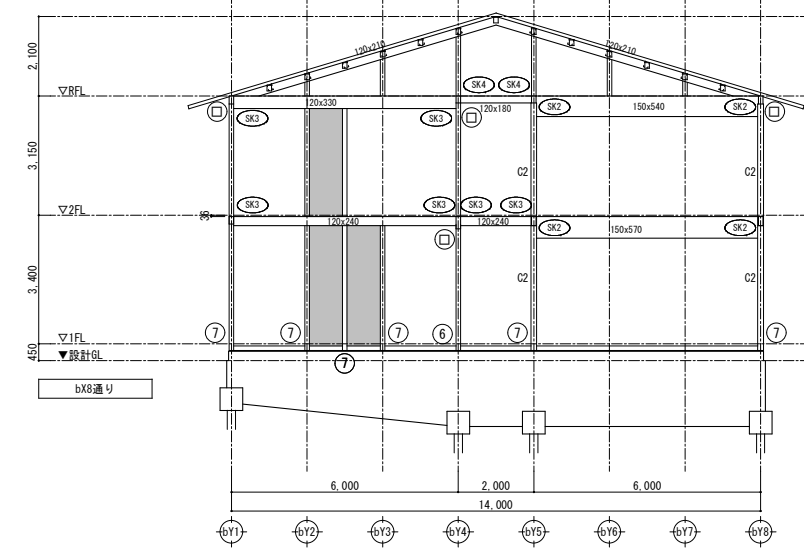
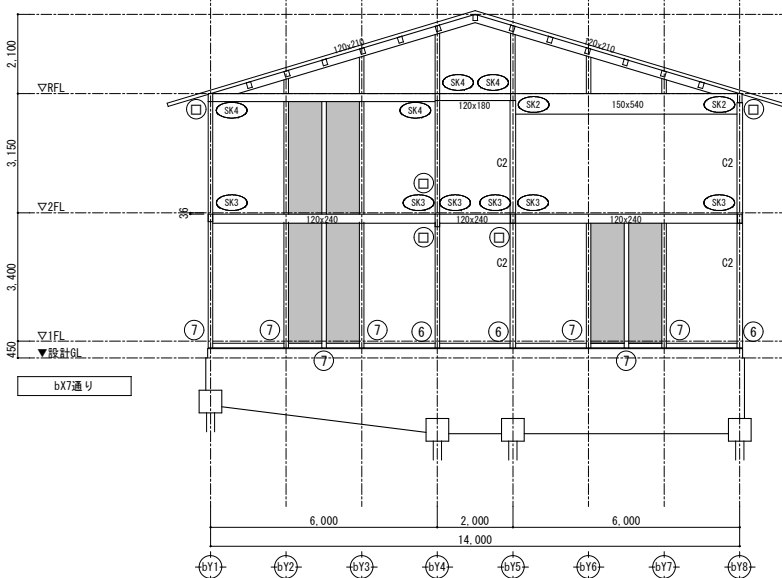
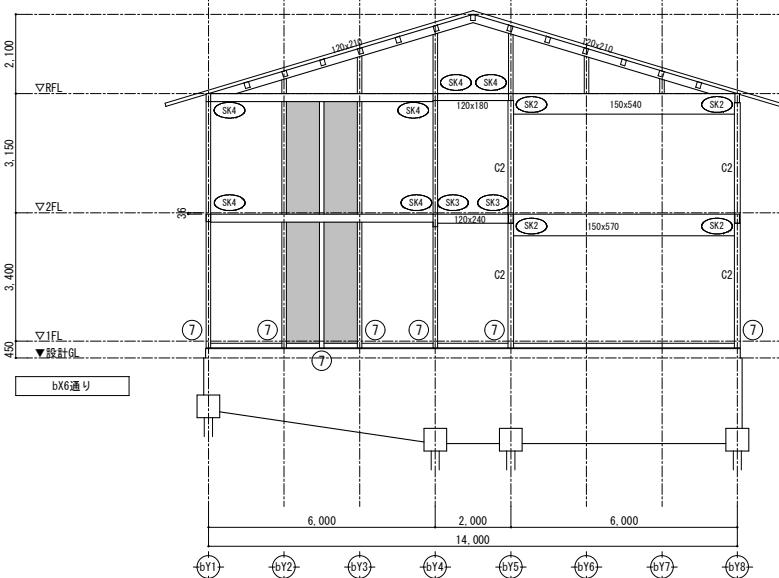
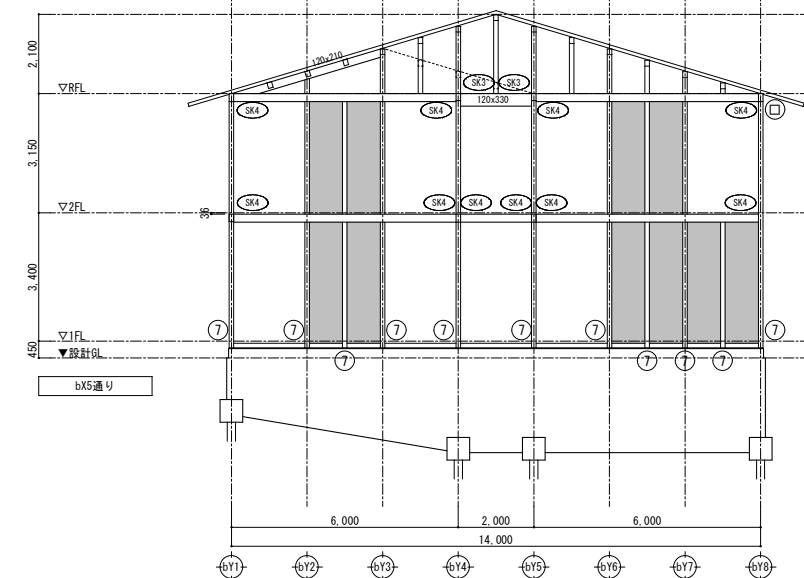
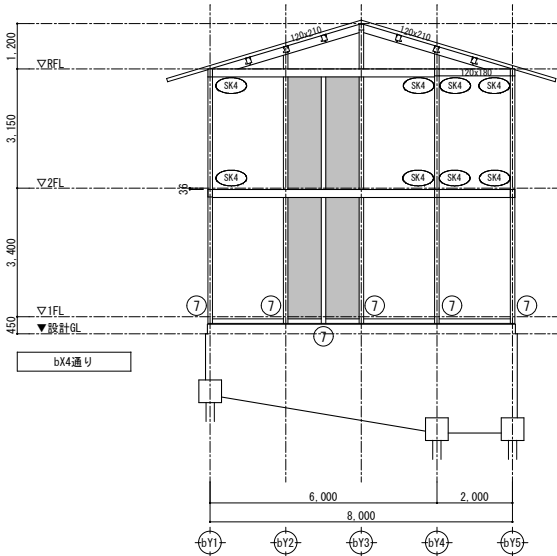
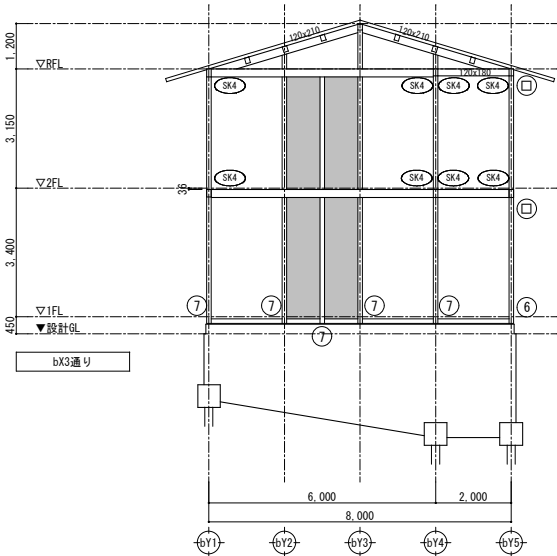
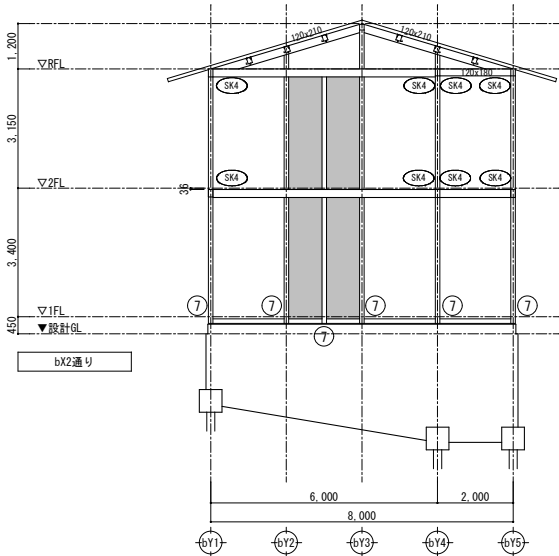
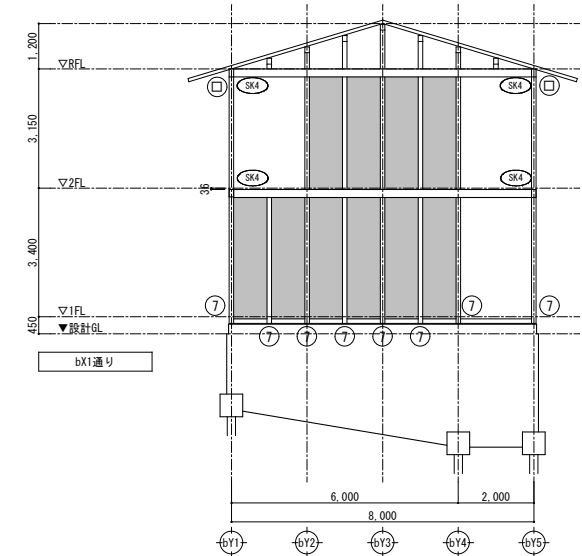
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
	T1	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ かね折り金物SAまたは羽子板ボルト	7.5		
	T2	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 短冊金物S	7.5		
	T3	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 15kN引き寄せ金物HD-B15	15.0		
	T4	大入り蟻掛け+羽子板ボルト	10.1		
●	T5	大入り蟻掛け+羽子板ボルト×2本	15.9	SBF2またはSBE2 (Zマーク表示金物) 同等品以上	(T5)
	T6	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 短冊金物S+スクリュースクリュー釘	8.5		
	T7	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 羽子板ボルト+スクリュースクリュー釘	8.5		
●	SK4	短期引張耐力12.1kN以上	12.1	BH-135 (Zマーク表示金物) 同等品以上	(SK4)
●	SK3	短期引張耐力25.5kN以上	25.5	短期引張耐力25.5kN 同等品以上	(SK3)
●	SK2	短期引張耐力51.0kN以上	51.0	短期引張耐力51.0kN 同等品以上	(SK2)
●	SK1	短期引張耐力23.9kN以上	23.9	別図 (S-009) 参照	(SK1)

垂木接合部、小屋束接合部リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	垂木-母屋接合	
●	WSC	木ねじ胴径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55	垂木#300-軒桁接合	
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	垂木#150-軒桁接合	
●	C2	かすがい2本打ち	2.16	母屋-束接合	



使用	符号	接合金物の仕様 (平12建合 第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	留意表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	重木-母屋接合	
●	WSC	木ねじ胴径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55	重木φ300-軒桁接合	
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	重木φ150-軒桁接合	
●	G2	かすがい2本打ち	2.16	母屋-梁接合	



部材リスト

- C1 : 120x120 県産材 同一等級集成材 E65-F255
C2 : 150x150 県産材 同一等級集成材 E65-F255
束 : 120x120 県産材 同一等級集成材 E65-F255
120x150 : 県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x180 : 県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x210 : 県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x240 : 県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x330 : 県産材 対称異等級集成材 E65-F225
150x540 : 県産材 対称異等級集成材 E75-F240
150x570 : 県産材 対称異等級集成材 E75-F240
・ : CLT 全面耐力壁位置
・ : CLT 県産材 軸60-3-3 異等級構成
・ : 垂木 45x90 ㄐㄢㄢㄢ製材JAS同等 一般部#300 軒先部#150
・ 柱 特記無き限り 120x120
・ 梁 特記無き限り 120x210

- ・ (●) : 柱頭柱脚金物 仕様は金物リスト参照。
・ (●) : 梁接合金物 仕様は金物リスト参照。
・ 特記無き柱頭・柱脚は、(9) 同等以上とする。
・ 特記無き梁接合部は、(T5) 同等以上とする。
・ CLT周辺金物は、別図参照とする。
・ 垂木、母屋、小屋束の接合部は、金物リスト参照。
・ 図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。

柱頭柱脚金物リスト

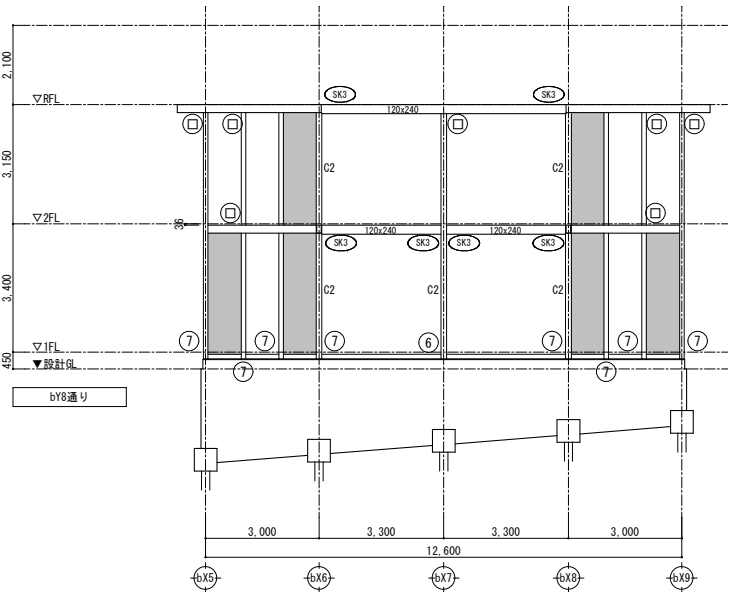
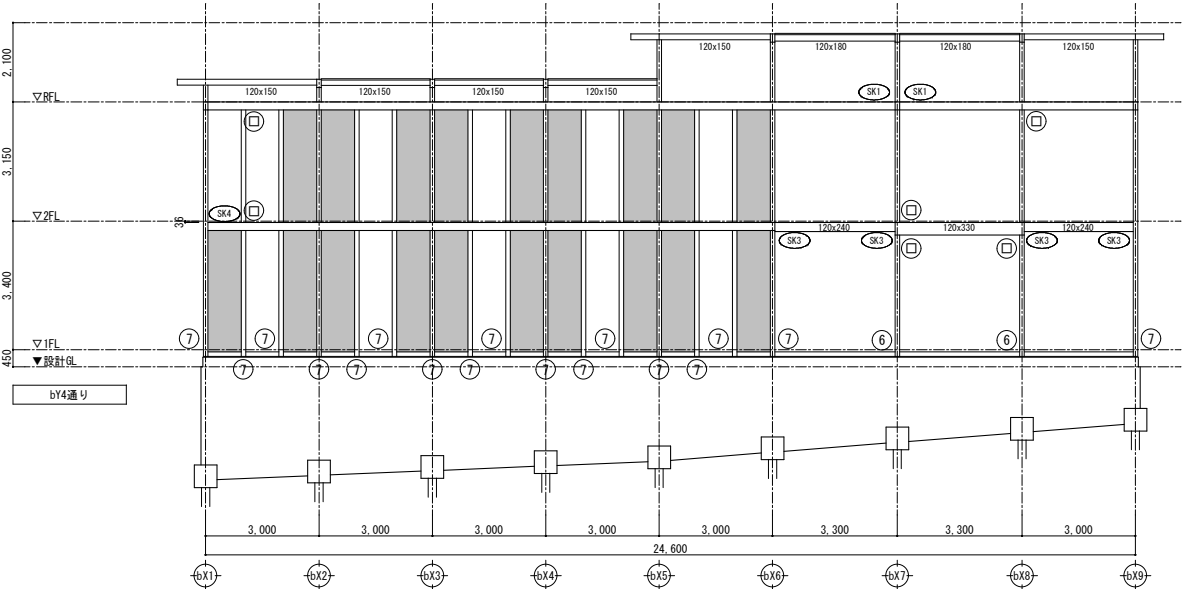
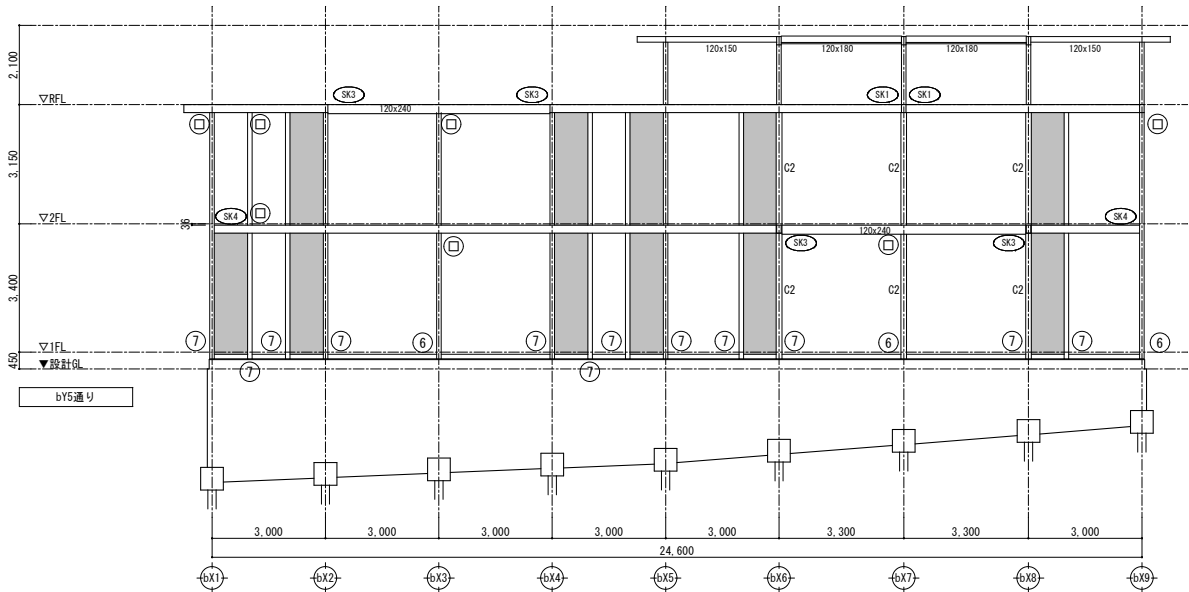
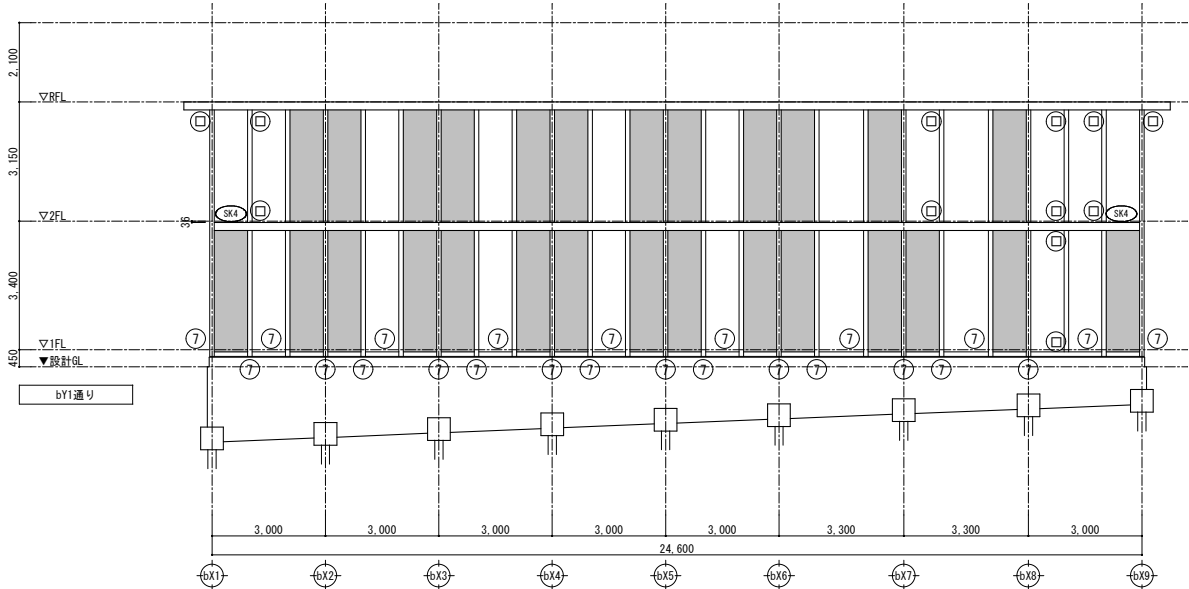
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	N値	使用金物例	図面表記
●	□	(い)短ほぞ差し+かすがいい打ち	0.0	0.0以下		□
●	6	短期引張耐力31.2kN以上	31.2	5.80	短期引張耐力31.2kN 同等品以上	6
●	7	短期引張耐力75.7kN以上	75.7	14.00	短期引張耐力75.7kN 同等品以上	7
●	9	短期引張耐力45.65kN以上	45.65	8.45	短期引張耐力45.65kN 同等品以上	9

梁接合（仕口）金物リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	T5	大入り蟻掛け+羽子板ボルト×2本	15.9	SBF2またはSBE2 (Zマーク表示金物)同等品以上	T5
●	SK4	短期引張耐力12.1kN以上	12.1	BH-135(Zマーク表示金物) 同等品以上	SK4
●	SK3	短期引張耐力25.5kN以上	25.5	短期引張耐力25.5kN 同等品以上	SK3
●	SK2	短期引張耐力51.0kN以上	51.0	短期引張耐力51.0kN 同等品以上	SK2
●	SK1	短期引張耐力23.9kN以上	23.9	別図 (S-009) 参照	SK1

垂木接合部、小屋束接合部リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	垂木-母屋接合	
●	WSC	木ねじ胴径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55	垂木#300-軒桁接合	
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	垂木#150-軒桁接合	
●	C2	かすがいい2本打ち	2.16	母屋-束接合	



SK1接合部					
4カ所					
接合具	PL-6	木材の主材及び銅板を添え板とする二面せん断ボルト型 (梁側)			
	ボルト	M12	L=120	3本	有効ボルト長さを示す
接合具	PL-6	銅板と木材による一面せん断ボルト型 (柱と梁取り付き接合部)			
	ボルト	M12	L=120	3本	有効ボルト長さを示す
	ボルト	M16	L=120	2本	有効ボルト長さを示す

部材リスト

- C1 : 120x120 県産ｽｷﾞ 同一等級集成材 E65-F255
- C2 : 150x150 県産ｽｷﾞ 同一等級集成材 E65-F255
- 束 : 120x120 県産ｽｷﾞ 同一等級集成材 E65-F255
- 120x150 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x180 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x210 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x240 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
- 120x330 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
- 150x540 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E75-F240
- 150x570 : 県産ｽｷﾞ 対称異等級集成材 E75-F240
- ・ : CLT 全面耐力壁位置
- ・ : CLT 県産ｽｷﾞ 軸60-3-3 異等級構成
- ・ : 垂木 45x90 ㄱｲｯﾌﾟ製材JAS同等 一般部#300 軒先部#150
- ・ 柱 特記無き限り 120x120
- ・ 梁 特記無き限り 120x210

- ・ : 柱頭柱脚金物 仕様は金物リスト参照。
- ・ : 梁接合金物 仕様は金物リスト参照。
- ・ 特記無き柱頭・柱脚は、 同等以上とする。
- ・ 特記無き梁接合部は、 同等以上とする。
- ・ CLT周辺金物は、別図参照とする。
- ・ 垂木、母屋、小屋束の接合部は、金物リスト参照。
- ・ 図面指定金物以外を使用する場合は、管理者と協議の上、選定を行うこと。

柱脚柱頭金物リスト

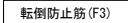
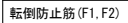
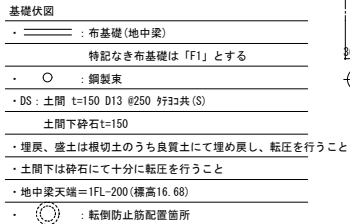
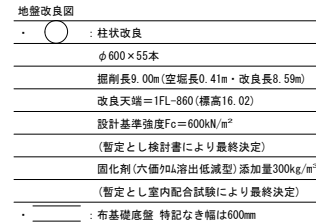
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	N値	使用金物例	図面表記
●	□	(い)短ほぞ差し+かすがい打ち	0.0	0.0以下		
●	6	短期引張耐力31.2kN以上	31.2	5.80	短期引張耐力31.2kN 同等品以上	
●	7	短期引張耐力75.7kN以上	75.7	14.00	短期引張耐力75.7kN 同等品以上	
●	9	短期引張耐力45.65kN以上	45.65	8.45	短期引張耐力45.65kN 同等品以上	

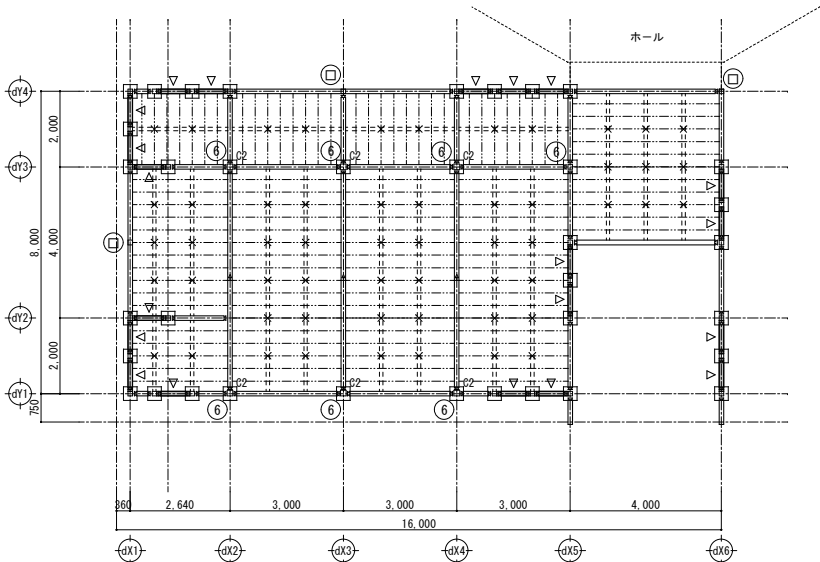
梁接合 (仕口) 金物リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	T5	大入り蟻掛け+羽子板ボルト×2本	15.9	SBF2またはSBE2 (Zマーク表示金物) 同等品以上	
●	SK4	短期引張耐力12.1kN以上	12.1	BH-135 (Zマーク表示金物) 同等品以上	
●	SK3	短期引張耐力25.5kN以上	25.5	短期引張耐力25.5kN 同等品以上	
●	SK2	短期引張耐力51.0kN以上	51.0	短期引張耐力51.0kN 同等品以上	
●	SK1	短期引張耐力23.9kN以上	23.9	左図参照	

垂木接合部、小屋束接合部リスト

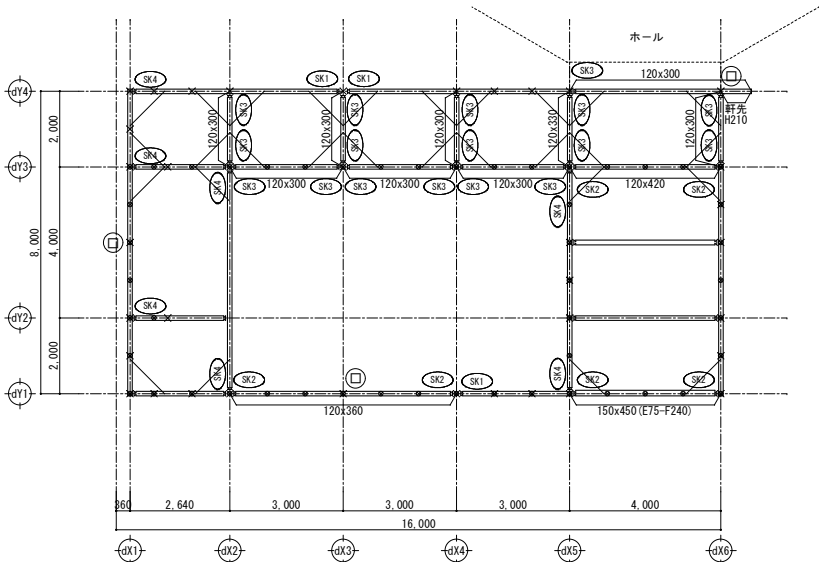
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	垂木-母屋接合	
●	WSC	木ねじ胴径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55	垂木#300-軒桁接合	
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	垂木#150-軒桁接合	
●	C2	かすがい2本打ち	2.16	母屋-束接合	





床伏図	
□	柱 特記なき限りC1とする
□	柱脚 柱勝ち(土台負け)
—	土台 特記なき限り D120(120x120)
—	特記なき限り L121製材JAS同等
—	土台仕口
—	土台継手
—	根太 45x60#300 ベイカ製材JAS同等 防蟻注入材
—	大引 90x90#900 ベイカ製材JAS同等 防蟻注入材
×	床束 #1000
床下地：構造用合板 t=15 (県産材 合板)	
—	QLT全面耐力壁位置
—	QLT 県産材 Mx60-3-3 異等級構成
▽	QLT耐力壁 鋼製ダンパー及び
せん断コネクタ取付位置を示す	
間柱：40x120 県産材 製材	

部材リスト	
C1	120x120 県産材 同一等級集成材 E65-F255
特記なき限り C1 とする	
C2	150x150 県産材 同一等級集成材 E65-F255
特記なき限り C2 とする	
柱脚金物 仕様は金物リスト参照。	
特記なき柱脚は、⑦ 同等以上とする。	
図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。	
QLT周辺金物は、別図参照とする。	

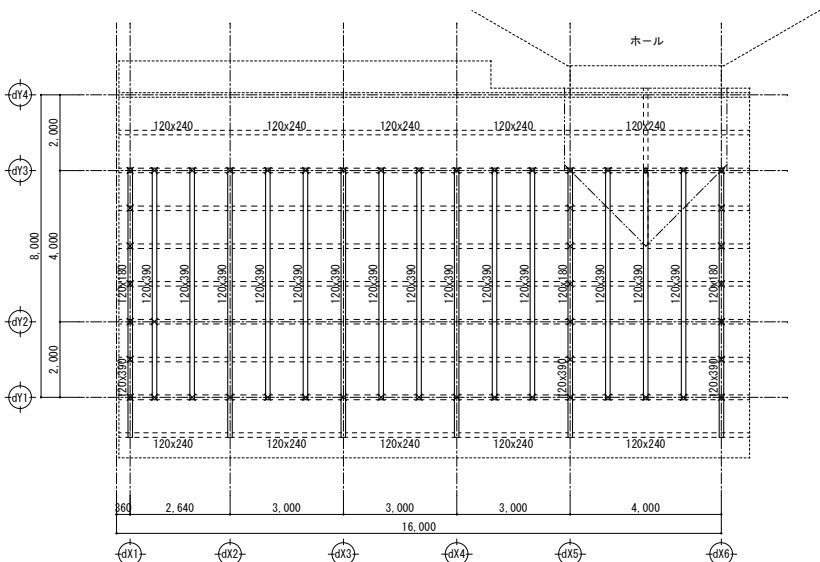


床伏図	
×	柱位置
—	梁 特記なき限り 120x210
—	梁仕口
—	火打梁
⊗	束 120x120
県産材 同一等級集成材 E65-F255	

部材リスト	
120x210	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x300	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x330	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x360	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x420	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
150x450	県産材 対称異等級集成材 E75-F240
柱頭金物 仕様は金物リスト参照。	
梁接合金物 仕様は金物リスト参照。	
特記なき柱頭は、⑨ 同等以上とする。	
特記なき梁接合部は、⑮ 同等以上とする。	
図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。	

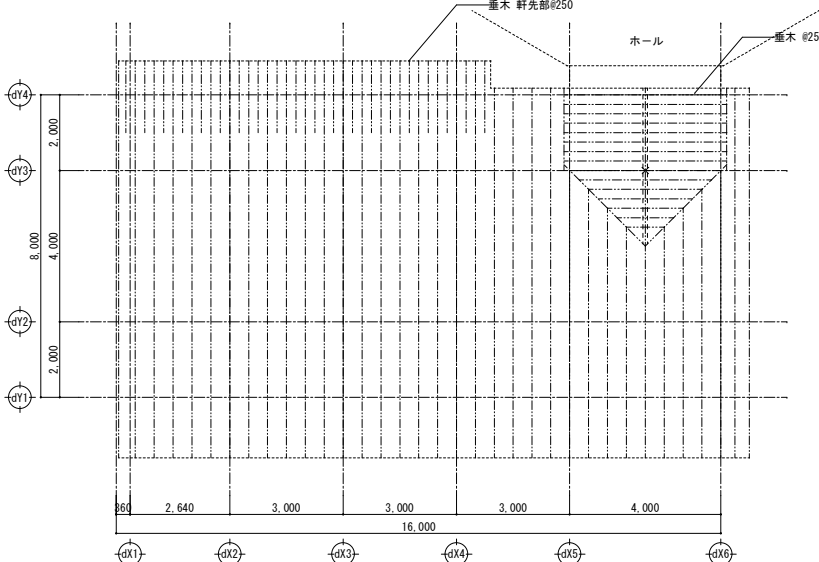
柱脚柱頭金物リスト						
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	N値	使用金物例	図面表記
●	□	(い)短ほぞ差し+かすがい打ち	0.0	0.0以下		□
	N L	(ろ)長ほぞ差し+込み栓打ち L形プレート	3.4	0.65以下		
	V T	(は)山形プレート T形プレート	5.1	1.0以下		
	P I	(に)羽子板* 外 短冊金物	7.5	1.4以下		
	Ps Is	(ほ)スリット併用羽子板* 外 スリット併用短冊金物	8.5	1.6以下		
	2	(へ)10kN引き寄せ金物	10.0	1.8以下		
	3	(と)15kN引き寄せ金物	15.0	2.8以下		
	4	(ち)20kN引き寄せ金物	20.0	3.7以下		
	5	(り)25kN引き寄せ金物	25.0	4.7以下		
	32	(ぬ)15kN引き寄せ金物×2	30.0	5.6以下		
●	6	短期引張耐力31.2kN以上	31.2	5.80	短期引張耐力31.2kN 同等品以上	⑥
●	7	短期引張耐力75.7kN以上	75.7	14.00	短期引張耐力75.7kN 同等品以上	⑦
●	9	短期引張耐力45.65kN以上	45.65	8.45	短期引張耐力45.65kN 同等品以上	⑨

梁接合（仕口）金物リスト					
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
	T1	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ かね折り金物SAまたは羽子板ボルト	7.5		
	T2	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 短冊金物S	7.5		
	T3	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 15kN引き寄せ金物D-B15	15.0		
	T4	大入り蟻掛け+羽子板ボルト	10.1		
●	T5	大入り蟻掛け+羽子板ボルト×2本	15.9	SBF2またはSBE2 (Zマーク表示金物)同等品以上	⑮
	T6	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 短冊金物S+スクリュー釘	8.5		
	T7	かたぎ大入れ短ほぞ差し+ 羽子板ボルト+スクリュー釘	8.5		
●	SK4	短期引張耐力12.1kN以上	12.1	BH-135(Zマーク表示金物) 同等品以上	SK4
●	SK3	短期引張耐力25.5kN以上	25.5	短期引張耐力25.5kN 同等品以上	SK3
●	SK2	短期引張耐力51.0kN以上	51.0	短期引張耐力51.0kN 同等品以上	SK2
●	SK1	短期引張耐力23.9kN以上	23.9	別図 (S-012) 参照	SK1



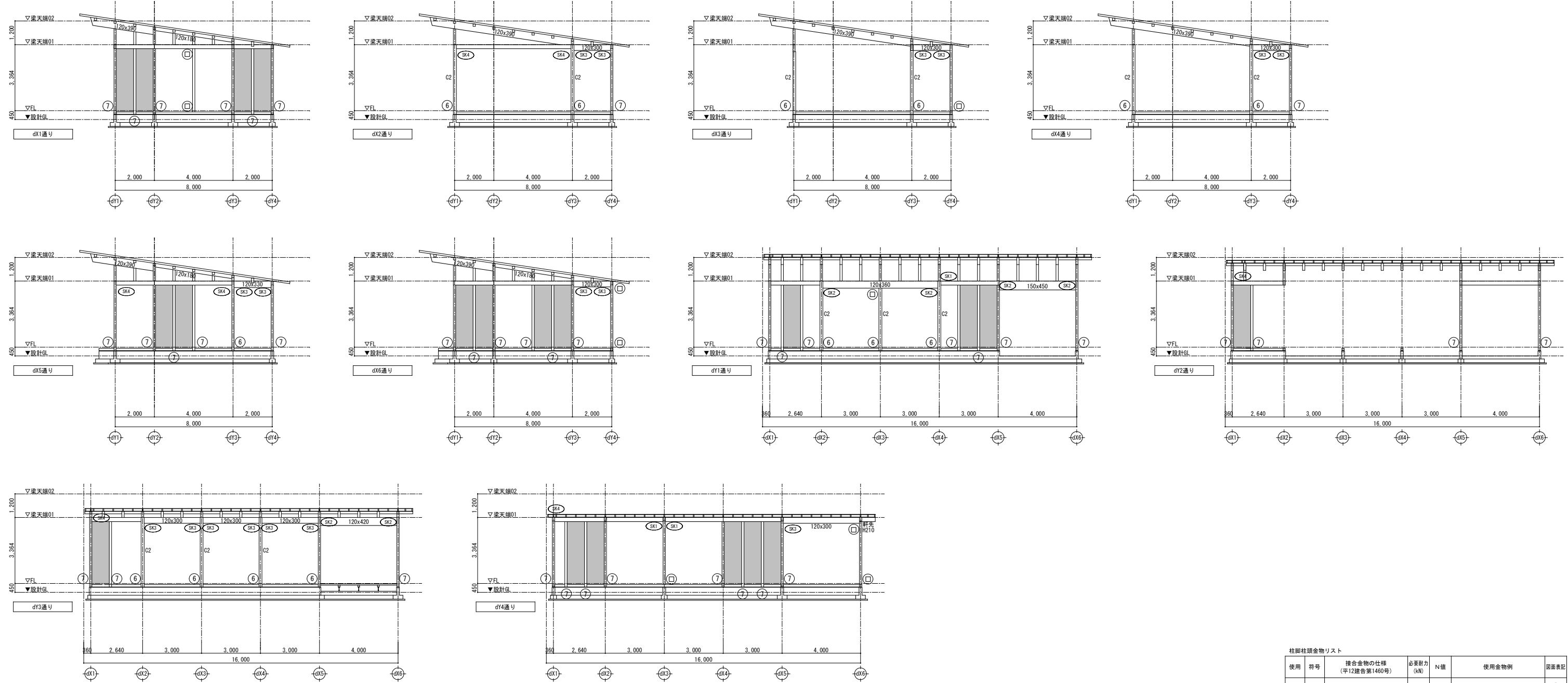
小屋伏図 1	
×	小屋束位置
—	登り梁
—	水下山桁
—	母屋
県産材 対称異等級集成材 E65-F225	
特記なき限り 120×120とする	

部材リスト	
120x180	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
120x390	県産材 対称異等級集成材 E65-F225
重木、母屋、小屋束の接合部は、金物リスト参照。	
図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。	



小屋伏図 2	
—	重木 45x90 ベイカ製材JAS同等
—	一般部#500 軒先部 (d14側) #250
—	屋根下地 構造用合板 t=24
川の字打ち N75#75以下	
短期許容せん断耐力 6.85kN/m	

垂木接合部、小屋束接合部リスト					
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	垂木-母屋接合	
	WSC	木ねじ 胴径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55		
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	垂木-軒桁接合	
●	C2	かすがい2本打ち	2.16	母屋-束接合	



SK1接合部					
3カ所					
接合員	PL-6	木材の主材及び銅板を添え板とする二面せん断ボルト型（梁側）			
	ボルト	M12	L=120	3本	有効ボルト長さを示す
接合員	PL-6	銅板と木材による一面せん断ボルト型（柱と梁取り付き接合部）			
	ボルト	M12	L=120	3本	有効ボルト長さを示す
	ボルト	M16	L=120	2本	有効ボルト長さを示す

部材リスト

- C1 : 120x120 県産杉* 同一等級集成材 E65-F255
C2 : 150x150 県産杉* 同一等級集成材 E65-F255
束 : 120x120 県産杉* 同一等級集成材 E65-F255
120x180 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x210 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x330 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x300 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x360 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x390 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
120x420 : 県産杉* 対称異等級集成材 E65-F225
150x450 : 県産杉* 対称異等級集成材 E75-F240
* : CLT 全面耐力壁位置
: CLT 県産杉* Mx60-3-3 異等級構成
* 垂木 45x90 へ'77製材JAS同等
一般部#300 軒先部#150
* 柱 特記無き限り 120x120
* 梁 特記無き限り 120x210

- * : 柱頭柱脚金物 仕様は金物リスト参照。
- * : 梁接合金物 仕様は金物リスト参照。
- * 特記無き柱頭・柱脚は、 同等以上とする。
- * 特記無き梁接合部は、 同等以上とする。
- * CLT周辺金物は、別図参照とする。
- * 垂木、母屋、小屋束の接合部は、金物リスト参照。
- * 図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。

柱脚柱頭金物リスト

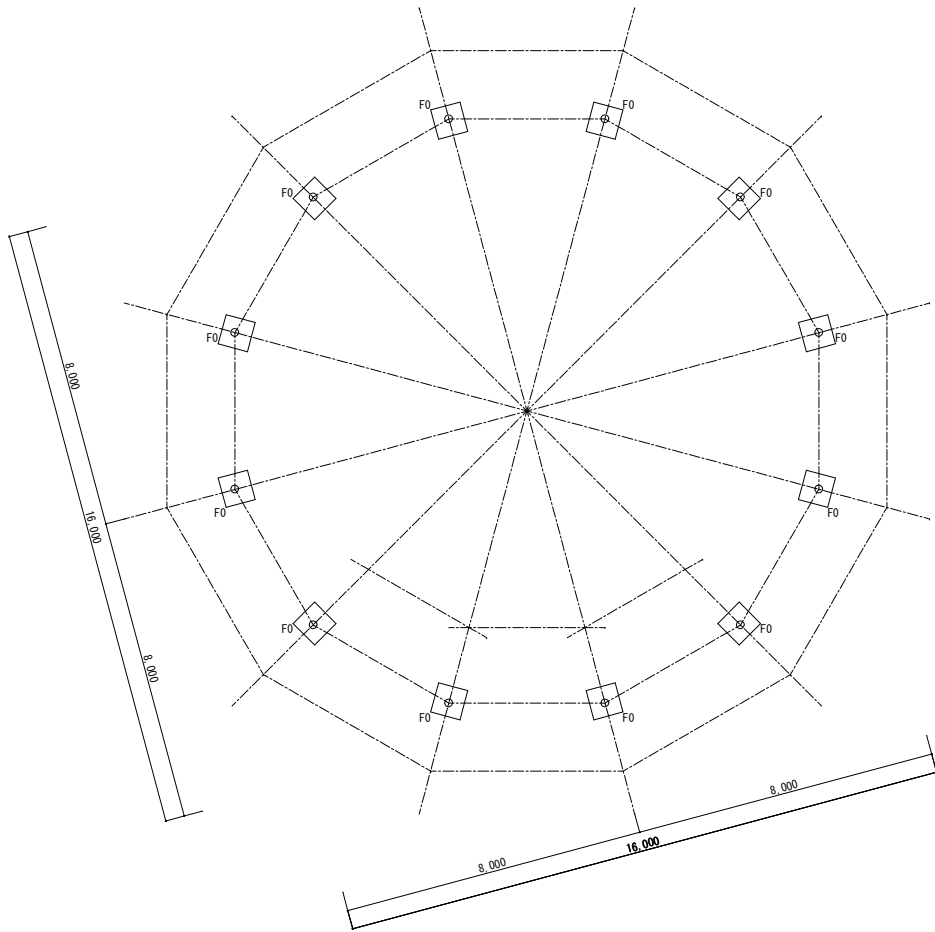
使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	N値	使用金物例	図面表記
●	□	(い)短ほぎ差し+かすがい打ち	0.0	0.0以下		
●	6	短期引張耐力31.2kN以上	31.2	5.80	短期引張耐力31.2kN 同等品以上	
●	7	短期引張耐力75.7kN以上	75.7	14.00	短期引張耐力75.7kN 同等品以上	
●	9	短期引張耐力45.65kN以上	45.65	8.45	短期引張耐力45.65kN 同等品以上	

梁接合（仕口）金物リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	T5	大入り蝶掛け+羽子板ボルト×2本	15.9	SBF2またはSBE2 (Zマーク表示金物) 同等品以上	
●	SK4	短期引張耐力12.1kN以上	12.1	BH-135 (Zマーク表示金物) 同等品以上	
●	SK3	短期引張耐力25.5kN以上	25.5	短期引張耐力25.5kN 同等品以上	
●	SK2	短期引張耐力51.0kN以上	51.0	短期引張耐力51.0kN 同等品以上	
●	SK1	短期引張耐力23.9kN以上	23.9	左図参照	

垂木接合部、小屋束接合部リスト

使用	符号	接合金物の仕様 (平12建告第1460号)	必要耐力 (kN)	使用仕口金物例	図面表記
●	N90	釘1-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.19	垂木-母屋接合	
●	WSC	木ねじ鋼径4mm以上、 打ち込み深さ30mm以上	0.55	垂木#300-軒桁接合	
●	2-N90	釘2-N90、打ち込み深さ30mm以上	0.38	垂木#150-軒桁接合	
●	C2	かすがい2本打ち	2.16	母屋-束接合	



杭伏図

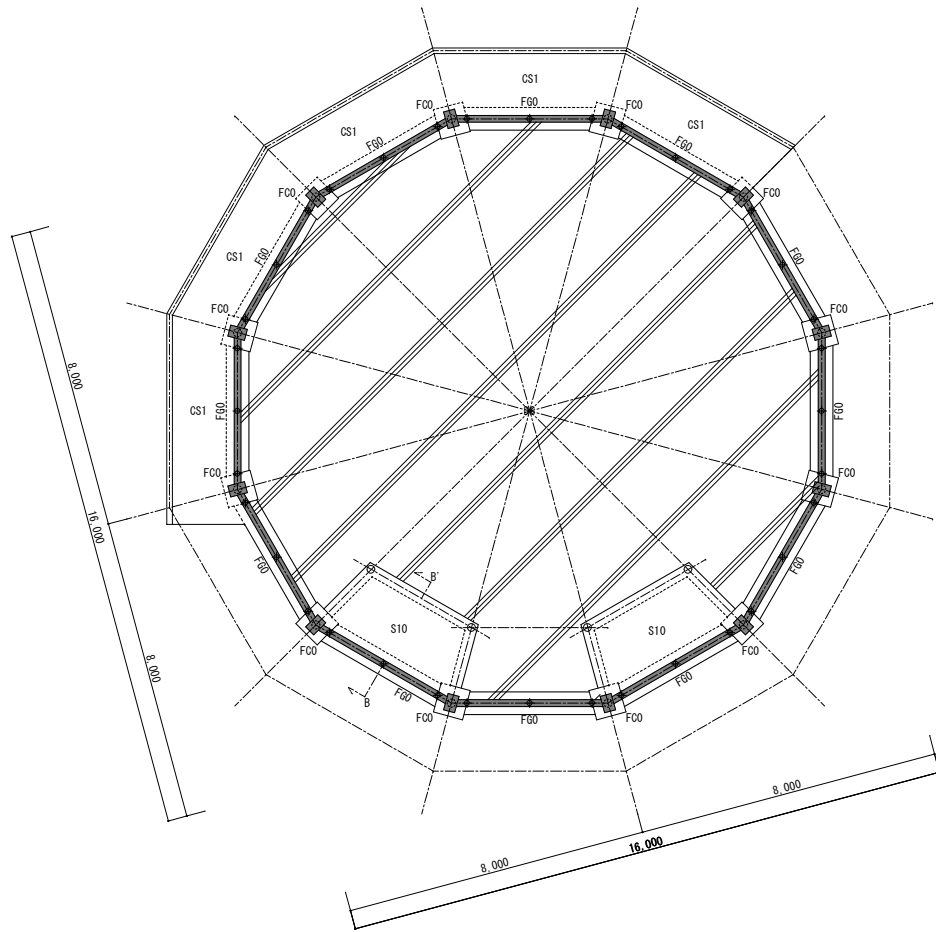
- ・特記無き杭先端高さ=1FL-2050
- ・F0 : 先端羽根付き鋼管杭

φ216.3 (8.2) D=470 (22) STK-490

L=15.0 (5+5+5) 12SET

杭頭補強筋: 6-D13 定着L=520, 溶接L=60

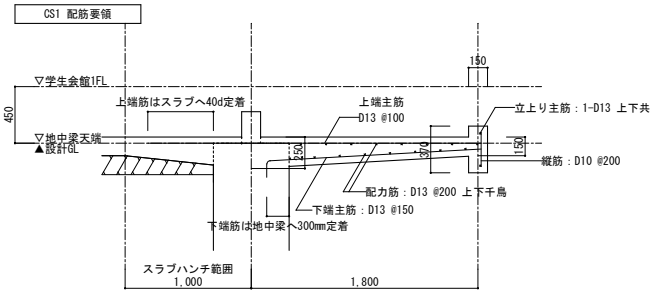
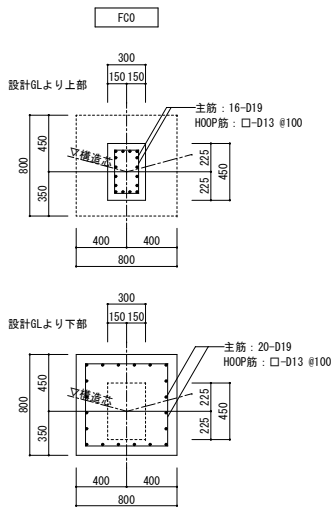
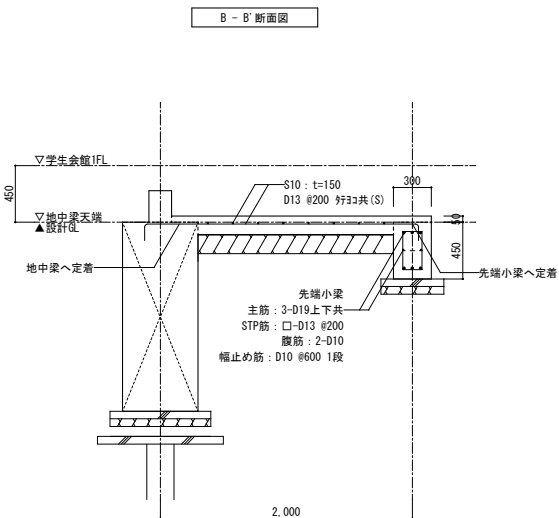
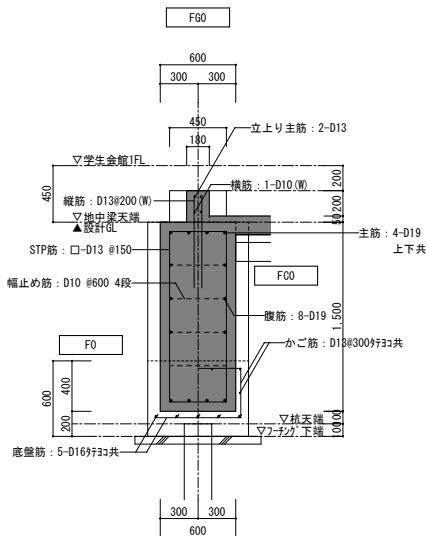
施工に先立ち検討書を作成すること

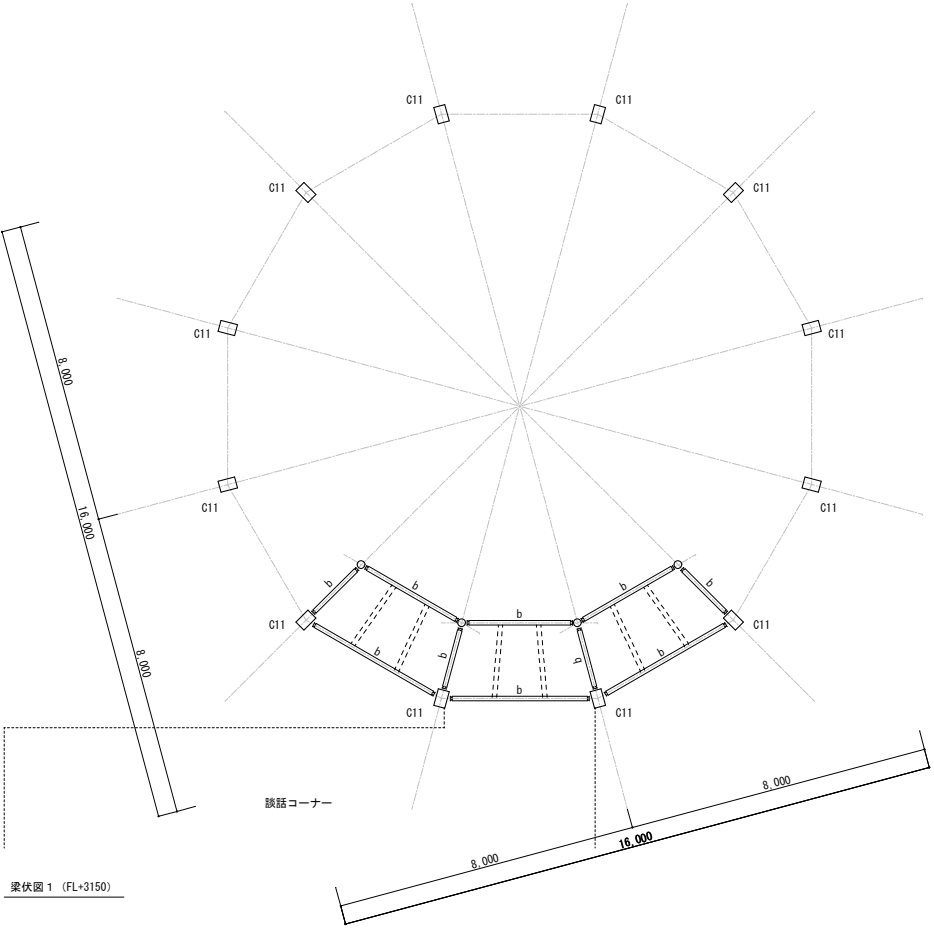
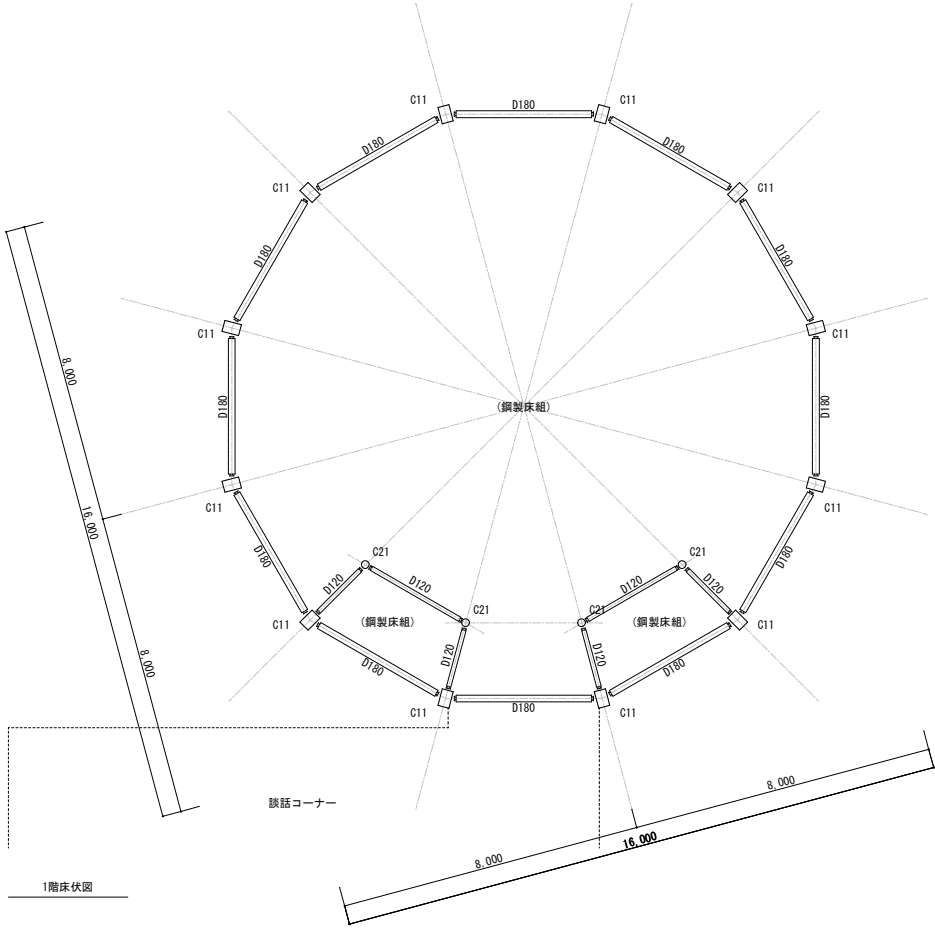
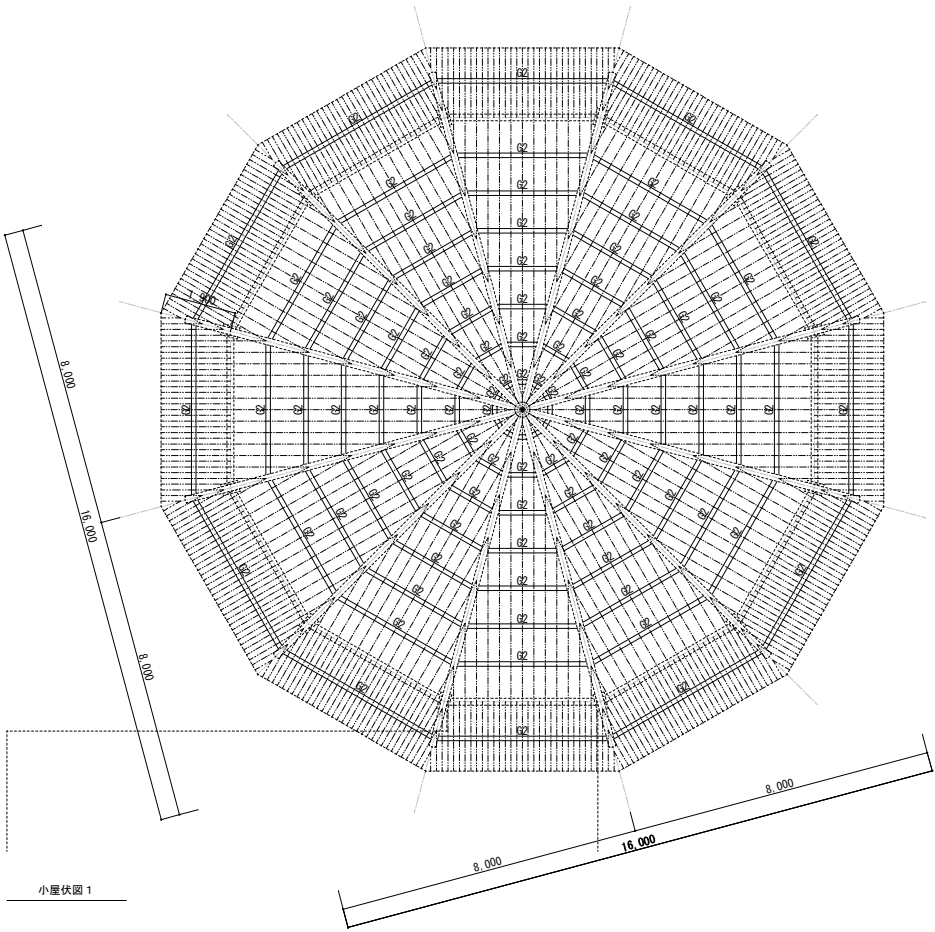
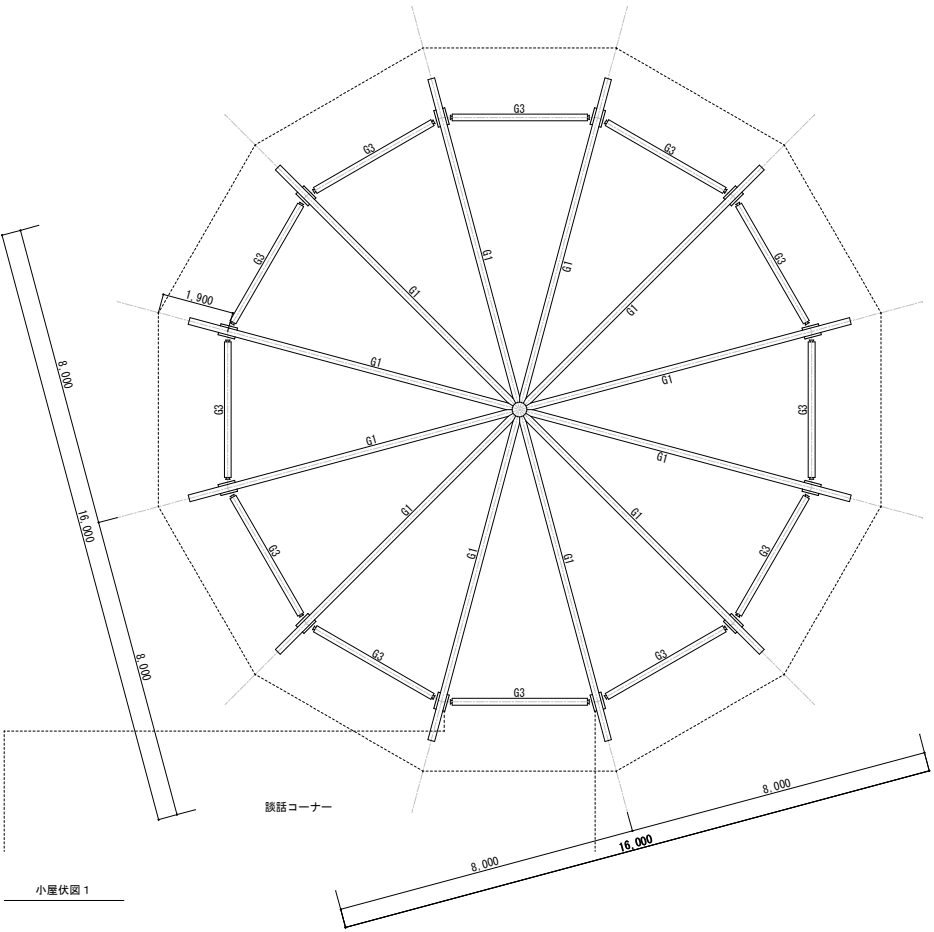
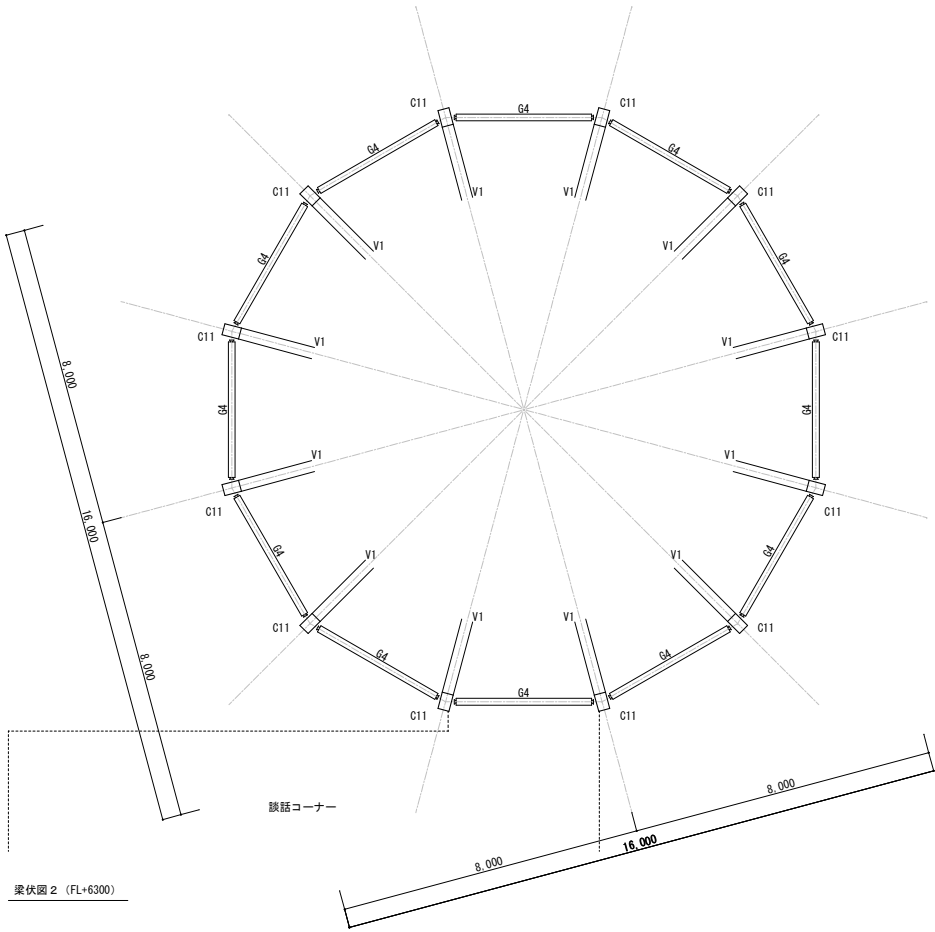


基礎伏図

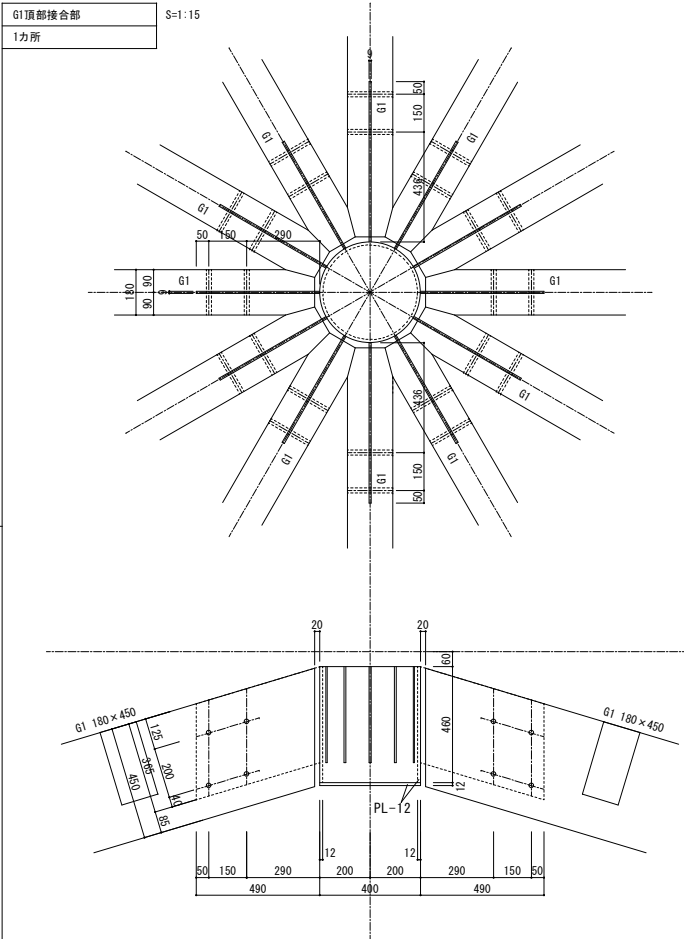
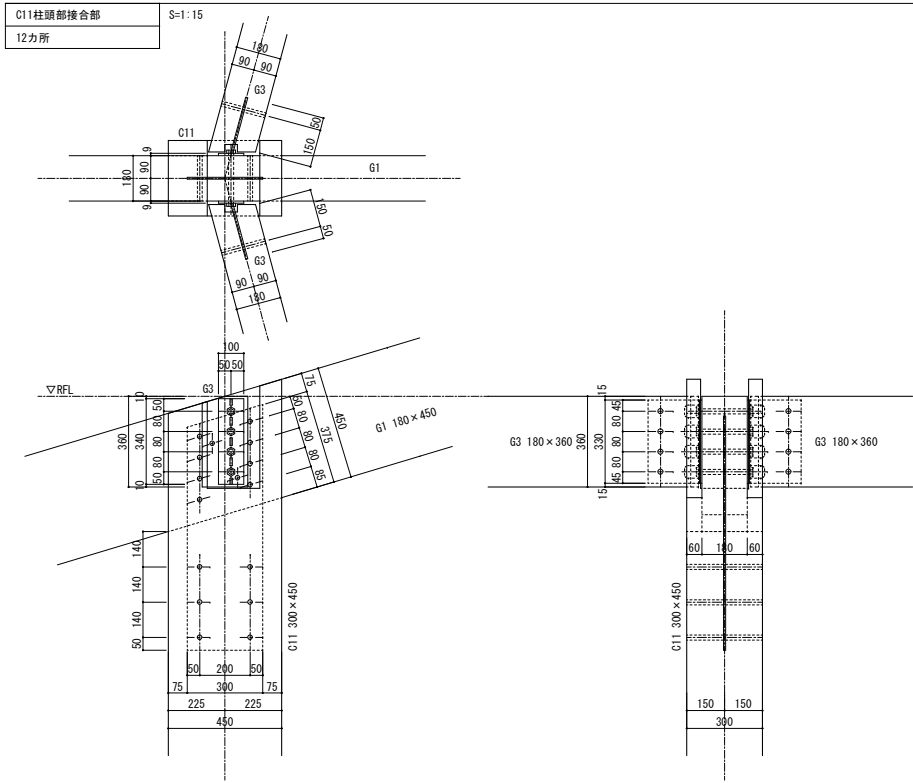
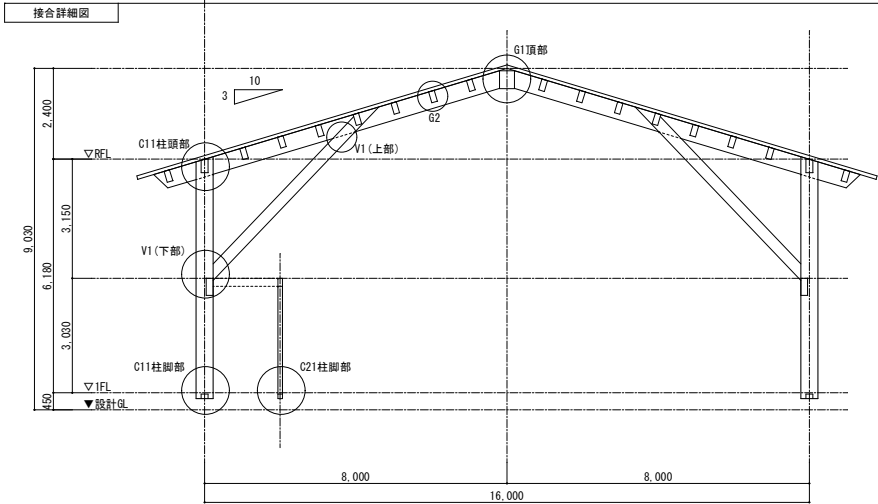
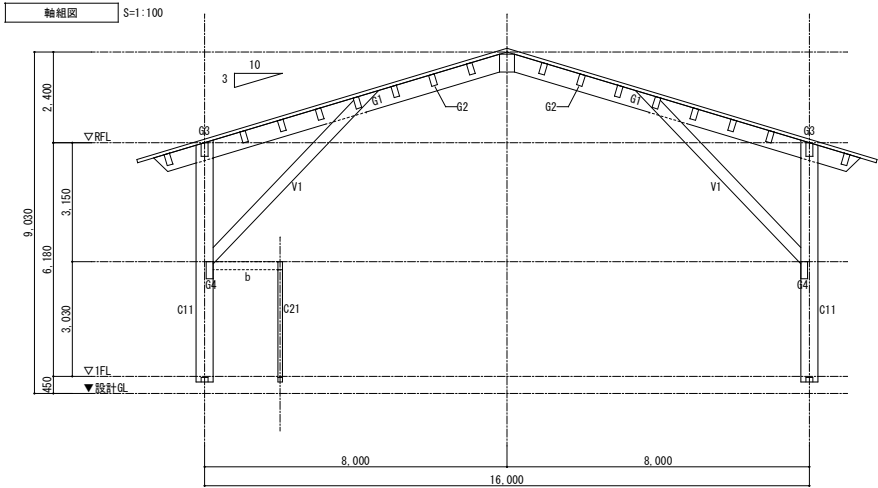
- ・CS1 : 地中梁
- ・F0 : 腰壁
- ・+ : アンカーボルト M12 (Zマーク同等品以上) 定着L=250mm以上

- ・DS : 土間 t=150 D13 #250 9#33共 (S) 土間下碎石t=150
- ・埋戻、盛土は根切土のうち良質土にて埋め戻し、転圧を行うこと
- ・土間下は砕石にて十分に転圧を行うこと

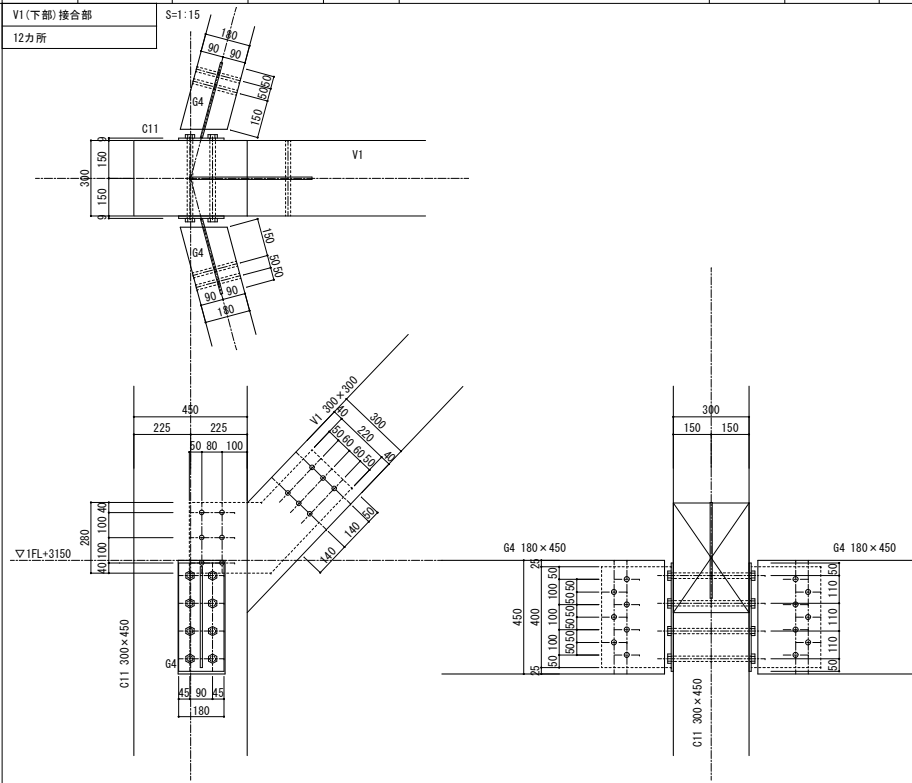




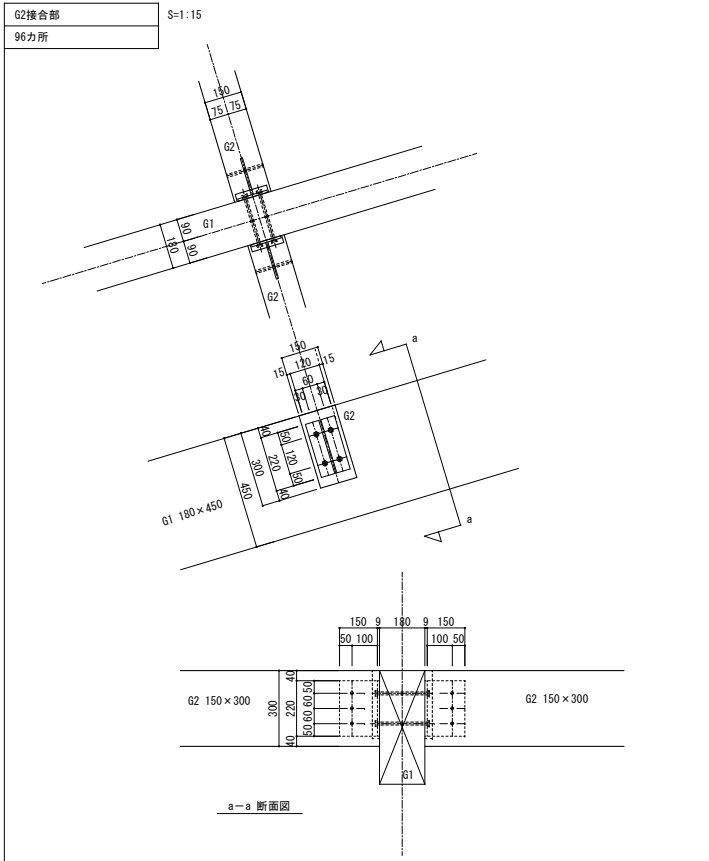
部材リスト	
C11	: 300x450 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E75-F240 (二次接着部材)
G1	: 180x450 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E75-F240
G2	: 150x300 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
G3	: 180x360 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
G4	: 180x450 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
V1	: 300x300 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225 (二次接着部材)
C21	: 210φ 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
b	: 120x210 県産ｽﾏｯﾄﾞ 対称異等級集成材 E65-F225
D180	: 土台 180x120 ﾋﾞﾅｲﾄﾞ製材JAS同等
D120	: 土台 120x120 ﾋﾞﾅｲﾄﾞ製材JAS同等
・ 垂木 45x90 ﾋﾞﾅｲﾄﾞ製材JAS同等	
一般部#500 軒先部#250	
垂木－桁梁接合部: 2-N90 打ち込み深さ30mm 同等品以上	
垂木－母屋接合部: N90 打ち込み深さ30mm 同等品以上	
・ 接合金物は別図参照	
・ 図面指定金物以外を使用する場合は、監理者と協議の上、選定を行うこと。	



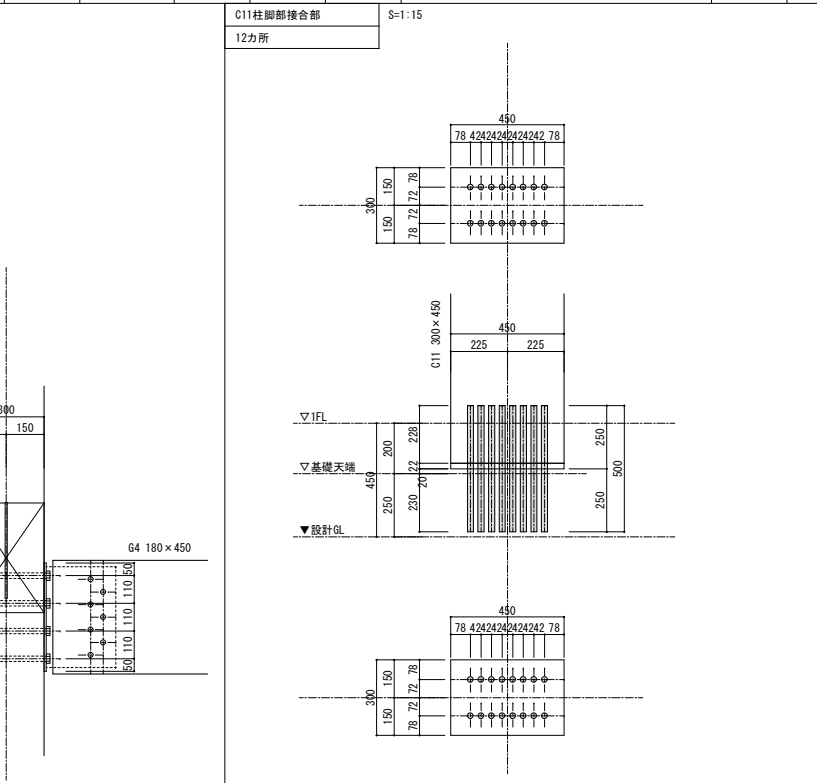
接合員	PL-9、PL-12	木材の主材の中央部に鋼板を挿入した二面せん断ボルト型			
+	ドリフトピン	M20	L=150	48本	建方後、埋木処理



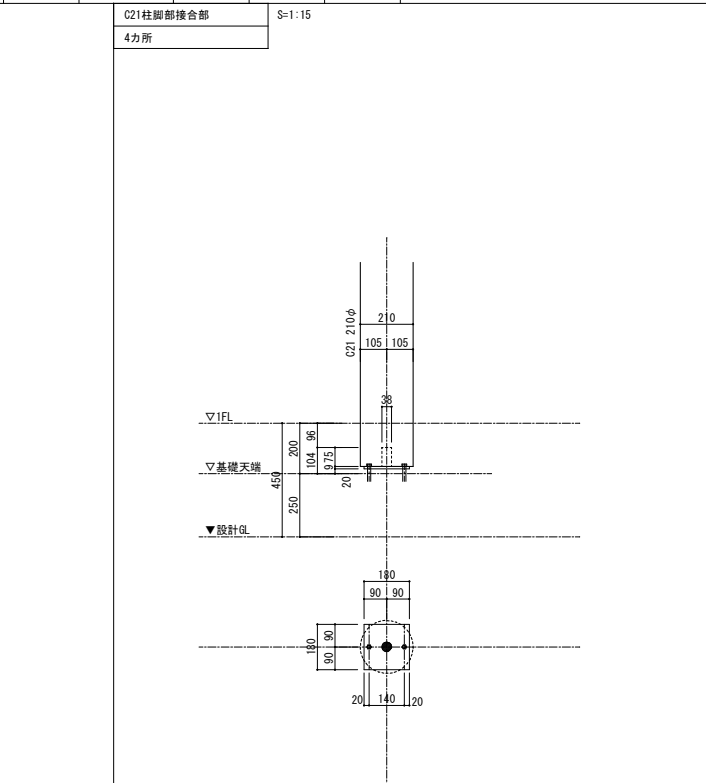
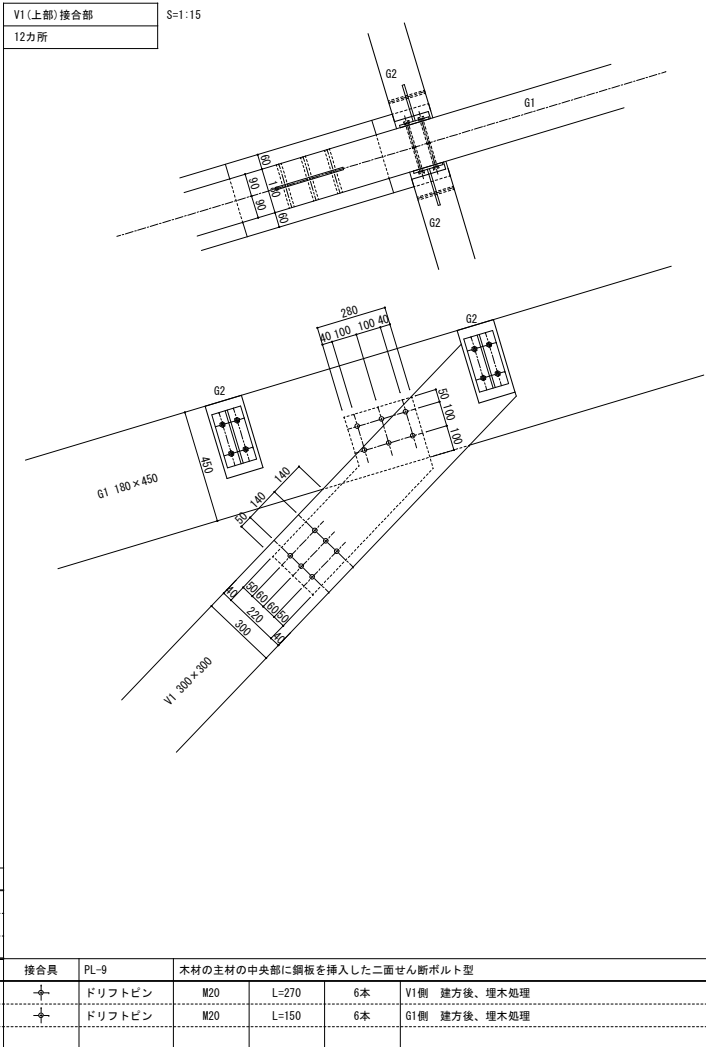
接合員	PL-9	木材の主材の中央部に鋼板を挿入した二面せん断ボルト型			
+	ドリフトピン	M20	L=270	6本	V1側 建方後、埋木処理
+	ドリフトピン	M20	L=270	3本	C11側 建方後、埋木処理
接合員	PL-9	鋼板と木材による一面せん断ボルト型 (C11柱取付側、接合金物1ヶあたり)			
+	ボルト	M22	L=300	8本	有効ボルト長さを示す
接合員	PL-9	木材の主材の中央部に鋼板を挿入した二面せん断ボルト型 (G4梁側、接合金物1ヶあたり)			
+	ドリフトピン	M20	L=150	7本	建方後、埋木処理



接合員	PL-9	鋼板と木材による一面せん断ボルト型 (G1登梁取付側、接合金物1ヶあたり)			
+	ボルト	M12	L=180	4本	有効ボルト長さを示す



接合員	B. PL-22	24φ	TL-500	16本	木部定着長さL=228mm以上 基礎部定着長さL=230mm
+	ホームコネクター				
接合員	B. PL-9	アンカーボルト			
+	アンカーボルト	M12		2本	
接合員		ダボ (鋼材)	38φ	L=75	1本 ベースプレートに溶接



接合員	B. PL-9	アンカーボルト			
+	アンカーボルト	M12		2本	
接合員		ダボ (鋼材)	38φ	L=75	1本 ベースプレートに溶接

